

大分市埋蔵文化財調査概要報告2010

平成21年度版



中世大友府内町跡第85次調査出土「文政一朱金」

大分市教育委員会

序 文

本書は、平成21年度に大分市教育委員会が実施いたしました埋蔵文化財発掘調査と関連事業の概要を収録したものです。

大友氏遺跡に関連しては、2箇所で大規模な確認調査を実施しました。まず、大友氏館跡の南側に推定されている「御蔵場跡」では、北限と南限の範囲が確かめられるとともに、内部においては、礎盤石をもつ建物が継続的に建てられているが生活関連の遺構がみられないなど、重要な知見を得ることができました。

次に、推定万寿寺跡南側では、寺域の南に推定されていた、「府内古園」に描かれる五重塔の発見はありませんでしたが、幅14mにも及ぶ南北道路跡とそれに沿う町屋跡が確認でき、戦国時代の万寿寺南隣のようなすがすがしいに明らかになってきました。いずれも、大友氏遺跡の重要な要素をなす施設等の具体的な姿を明らかにするもので、貴重な調査成果となりました。

また、平成20年度に国史跡の指定を受けた横尾貝塚では、指定の記念事業として、大分市歴史資料館における特別展「山ん縄文と海ん縄文－縄文人のムラのかたち－」を実施するとともに、史跡指定地現地ではウォークラリー形式の体験イベント「縄文の里山ウォーク 8000年の森の探検」を開催し、多くの方のご参観・ご参加をいただきました。今後とも、市民の皆さまのご意見をいただきながら、史跡の保存整備を進めてまいりたいと存じます。

最後になりましたが、本書が市民の皆様にも広く活用されますよう祈念いたしますとともに、本市文化財行政に対しまして一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

平成22年12月28日

大分市教育委員会 教育長 足立 一馬

例 言

1. 本書は、大分市域において大分市教育委員会が平成21年4月1日～平成22年3月31日の間に行った埋蔵文化財に関する発掘調査およびこれに関連する事業の内容についてまとめた概要報告書である。
2. 平成21年度における調査地点は、第2図および第4表に示している。
3. 本書の執筆は、担当者が分担して行い、文末に執筆者名を記している。
4. 第5章の受贈図書一覧は、平成21年4月1日～平成22年3月31日の間に大分市教育委員会文化財課に受贈された書籍等を掲載した。なお、受贈図書一覧の作成は、石川ゆかりによる。
5. 本書に掲載された遺跡調査の資料整理は、調査担当者をはじめ、下記の大分市教育委員会嘱託職員が行ったものである。
井口あけみ、裨田智美、奥村義貴、佐藤孝則、羽田野裕之、上原翔平、廣瀬育子、松本晴美、木村藍子、小野千恵美、佐藤良子、小島愛、倉増美智代、鍋島千恵子、姫野久恵
6. 第3章に掲載した調査報告のうち、平成20年度以前の調査分については、下記の嘱託職員の担当もしくは協力により実施した。
三嶋桂司、山下朋紀、若秋善満、山下桂
7. 本文中に掲載した現場写真は、各調査担当者が撮影したものである。
8. 本書の編集・構成は、石川、高島および各調査担当者が行った。
9. 出土遺物および調査の記録・資料は大分市教育委員会文化財資料室に保管している。

本文目次

第1章	大分市教育委員会教育部文化財課概要	1
1	沿革	1
2	組織	1
3	大分市教育委員会事務局組織規則（抜粋）	2
第2章	平成21年度埋蔵文化財発掘調査の概要	3
第3章	主要な埋蔵文化財発掘調査概要及び調査報告	7
①	大友氏館跡第22次調査（概要）	7
②	中世大友府内町跡第86次調査（概要）	8
③	中世大友府内町跡第87次調査（概要）	9
④	中世大友府内町跡第85次調査（報告）	10
⑤	上野大友館跡（上原館跡）第6次調査（報告）	16
⑥	下郡遺跡群第144次調査（報告）	20
⑦	下郡遺跡群第145次調査（報告）	21
⑧	中世大友府内町跡第83次調査（平成20年度確認調査報告）	22
⑨	中世大友府内町跡第90次調査（平成20年度確認調査報告）	29
⑩	上野遺跡群第11次調査（平成18年度確認・立会調査報告）	35
第4章	平成21年度教育普及活動の成果概要	39
①	「戦国時代と大友宗麟－戦国・大分のまち「府内」の姿」展	39
②	大友氏遺跡フェスタ2009企画展「戦国時代の世界－大友宗麟とそのライバル達－」	39
③	大友氏遺跡フェスタ2009	39
④	大分市歴史資料館第28回特別展 横尾貝塚国史跡指定記念特別展	40
⑤	横尾貝塚国史跡指定記念講演会「世界的にみた縄文文化と横尾貝塚」	40
⑥	横尾貝塚国史跡指定記念イベント「縄文の里山ウォーク 8000年の森の探検」	40
⑦	海部古墳資料館特別展 タイムトラベラー 2009	40
⑧	大分市文化財便り2009年度号の発行	41
⑨	大友氏遺跡体験学習館 平成21年度の活動	41
第5章	愛贈図書目録	43

挿 図 目 次

第2章	中世大友府内町跡第86次調査概要
第1図	大分市内地域区分図
第2図	平成21年度発掘調査位置図
第3図	本書で報告する調査の位置図
第3章	中世大友府内町跡第87次調査概要
大友氏館跡第22次調査概要	
第4図	調査位置図
第5図	調査区全景（南から）
第6図	地業跡土層（西から）
第7図	調査位置図
第8図	調査地点北西部空中写真（南東から）
第10図	万4SX150土層堆積状況（北西より）
第9図	調査位置図
第10図	調査区全景空中写真（南から）
第11図	塔推定地付近近景空中写真（上が北）
	府内城・城下町跡第85次調査

第12図	調査位置図	10
第13図	出土遺構切り合い図・遺構全体図	10
第14図	北壁・西壁土層図	12
第15図	SK010平面・断面図	12
第16図	SK010完掘状況	12
第17図	出土遺物	13
第18図	近世大溝SD001平面・土層断面図	14
第19図	近世大溝SD001土層断面図	14
第20図	調査区全景（東から）	15
第21図	SD001土層（東から）	15
第22図	SD001土層（西から）	15
第23図	SD001遠景（東から）	15
第24図	文政一朱金の出土（SD001内）	15
上野大友館（上原館）第8次調査報告		
第25図	位置図	16
第26図	調査区詳細位置図	16
第27図	遺構全体図・土層断面図	17
第28図	調査区土層断面図	18
第29図	出土遺物	19
第30図	完掘状況（南から）	19
第31図	調査区北壁	19
第32図	調査区南壁	19
第33図	SK001完掘状況	19
下部遺跡群第144次調査報告		
第34図	位置図	20
第35図	完掘状況（南から）	20
第36図	遺構配置図	20
第37図	土層図	20
下部遺跡群第145次調査報告		
第38図	位置図	21
第39図	完掘状況（西から）	21
第40図	遺構配置図	21
第41図	土層図	21
府内城・城下町跡第83次調査確認調査報告		
第42図	位置図	22
第43図	確認調査トレンチ配置状況と調査成果図	22
第44図	道路関連トレンチ遺構図	24
第45図	町屋関連トレンチ配置図	25
第46図	町83本調査区周辺確認調査トレンチ配置図	25
第47図	出土遺物	26
第48図	旧万寿寺南側遺構分布推定図	28
第49図	27T・7T遺構検出状況（北西から）	28
第50図	7T道路遺構断面（北から）	28
第51図	9T遺構検出状況（西から）	28
第52図	16T・S-18（南から）	28
府内城・城下町跡第90次調査確認調査報告		
第53図	位置図	29

第54図	調査位置詳細図	29
第55図	1～3、7トレンチ平面図・土層図	30
第56図	4～6トレンチ平面図・土層図	31
第57図	出土遺物	32
第58図	4トレンチ南半遺構掘削状況（北西から）	34
第59図	4トレンチSX003（北西から）	34
第60図	4トレンチSX002（北西から）	34
第61図	2トレンチ遺構検出状況（南東から）	34
上野遺跡群第11次調査（確認調査・立会調査）報告		
第62図	調査位置図	35
第63図	調査位置詳細・検出遺構配置図	35
第64図	遺構配置図・柱穴土層断面図・土層模式図	36
第65図	出土遺物	37
第66図	6/21確認調査時遺構検出状況（北から）	38
第67図	10/4遺構検出状況（南西から）	38
第68図	10/4遺構検出状況（北から）	38
第69図	S-3土師器坏出土状況	38
第4章		
第70図	九州電力大分支店内での展示のようす	39
第71図	赤レンガ館での展示のようす	39
第72図	旧跡めぐりのようす	39
第73図	パネルディスカッションのようす	39
第74図	大分市歴史資料館での展示のようす	40
第75図	記念講演会のようす	40
第76図	木こり体験	40
第77図	海部古墳資料館での展示	41
第78図	文化財たより2009年度号の内容	41
第79図	体験館内での活動	41
第80図	発掘体験	42
第81図	義統かぼちゃ苗植え祭	42
第82図	収穫した義統かぼちゃ	42
第83図	大友氏遺跡体験学習館の外観	42

表目次

第2章	平成21年度発掘調査一覧	3
第2表	平成21年度確認調査・立会調査一覧	5
第3章		
第3表	町83確認調査トレンチ一覧	23

第1章 大分市教育委員会教育部文化財課概要

1. 沿革

- 昭和51年4月1日 大分市教育委員会社会教育課内に文化財係を設置
 昭和59年6月28日 大分市教育委員会社会教育課文化財係を大分市教育委員会社会教育課文化財室に改組
 平成5年4月1日 大分市教育委員会文化振興課文化財室に改組
 平成10年4月1日 大分市教育委員会生涯学習課文化財室に改組
 平成12年4月1日 大分市教育委員会文化財課に改組
 平成13年4月1日 大分市教育委員会教育総務部文化財課に改組
 平成21年4月1日 大分市教育委員会教育部文化財課に改組

2. 組織

大分市歴史資料館	
次長兼課長 玉永光洋	参事兼館長 讀岐和夫
参事 岩田祐治（～平成22年3月）	課長補佐兼副館長 久多羅岐明 武富雅宣
課長補佐 塔鼻光司 福田誠一（平成22年4月～）	主査 廣岡道代（～平成22年3月）
主幹兼文化財普及担当 後藤典幸（～平成22年3月）	安部幹夫
管理係長 筒井和信（平成22年4月～）	秋吉えつ子（平成22年4月～）
主査 幸 俊昭（～平成21年6月）	甲斐 猛（～平成22年3月）
桑原 治（平成22年3月）	姫野公德
栗田博之 渡辺政雄（平成21年7月～）	後藤真治（平成22年4月～）
神崎小由美（平成21年7月～）	研修教諭 長田 晋（平成22年4月～）
斉藤慎悟（平成22年4月～）	主任 中西武高
指導主事 植木和美 小野富広（平成22年4月～）	嘱託 古瀬美鈴 大平直子
主任 竹中智美 加藤キヌ（～平成21年6月）	細井雅希 阿南希依
永松正大（平成22年4月～）	北原洋之 阿部和広
宮崎 勲 山上洋二郎 麻生重徳	高島葉月（～平成22年4月）
主事 朝川貴俊（平成22年4月～）	神志那潔（平成22年5月～）
文化財係長 坪根伸也	臨時職員 久下夕佳里（平成22年4月～）
専門員 池邊千太郎 高島 豊	
河野史郎 塩地潤一	
主任 佐藤道文 五十川雄也（平成22年4月～）	
主事 長 直信 石川ゆかり	
事務員 松浦恵治（平成22年4月～）	
嘱託 井口あけみ 神田智美 奥村義貴 佐藤孝則	
羽田裕祐之 上原翔平 仲町恵治 廣瀬育子	
松本晴美 木村藍子 小野千恵美	
佐藤良子 小島 愛 倉増美智代	
三嶋桂司（～平成22年3月）	
山下朋紀（～平成22年3月）	
鍋島千恵子（～平成22年3月）	
姫野久恵（～平成22年3月）	

3. 大分市教育委員会事務局組織規則（抜粋）

文化財課

- (1)文化財の調査、保存及び整備に関すること。
 (2)文化財保護思想の普及啓発に関すること。
 (3)文化財保護審議会に関すること。
 (4)歴史資料館、海部古墳資料館、毛利空桑記念館、池見家住宅その他文化財施設の管理に関すること。

1. 大分市文化財保護審議会

大分市文化財保護審議会委員（平成21年4月1日現在）

氏名	勤務先	担当
北野 隆	熊本大学・名誉教授（会長）	建造物
豊田 寛三	大分大学・教授（副会長）	近世
下村 悟	別府大学・教授	考古・埋蔵
西別府 元日	広島大学・教授	古代
鹿毛 敏夫	新居浜工業高等専門学校・准教授	中世
宗像 健一	大分市美術館・顧問	美術
吉田 稔	大分生物談話会事務局長	植物
渡辺 文雄	別府大学・教授	工芸
段上 達雄	別府大学・教授	民俗
渡邊 ひろ美	大分県立三重総合高等学校・教諭	動物

大分市文化財保護審議会条例（平成11年12月15日条例第42号）

（設置）

第1条 文化財保護法（昭和25年法律第214号）第190条第1項の規程に基づき、大分市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に大分市文化財保護審議会（以下「審議会」という）を置く。（平17条例13・一部改正）

（組織）

第2条 審議会は、委員10人以内をもって組織し、学識経験者のうちから教育委員会が委嘱する。

（任期）

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする。

（会長及び副会長）

第4条 審議会に会長及び副会長1人を置き、委員の互選により選出する。

2 会長は、審議会を代表し、会務を統括する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第5条 審議会の会議（以下「会議」という。）は会長が召集し、会長がその議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。

3 会議の議事は、出席議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明、又は意見を聴くことができる。

（部会）

第6条 審議会に、教育委員会規則の定めるところにより、部会を置くことができる。

（応務）

第7条 審議会の応務は、教育委員会事務局において処理する。

（委任）

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附則

（施行期日）

1 この条例は、平成12年4月1日から施行する。

（大分市文化財調査委員会条例の廃止）

2 大分市文化財調査委員会条例（昭和51年大分市条例第4号）は廃止する。

附則（平成17年条例第13号）

この条例は、平成17年4月1日から施行する。

第2章 平成21年度埋蔵文化財発掘調査の概要

平成21年度に、大分市教育委員会が実施した発掘調査（本調査）は21件、合計の調査面積は12964.8㎡である。このうち、大分市の公共事業によるものが13件8638.4㎡、国庫補助による市内道路確認調査が2件2343.2㎡、県街路事業に伴う受託事業が1件1604㎡、民間開発に伴う事業が4件で3592㎡であった。市内の地域区分でみると、横尾道路跡140次～142次、猪野道路跡3次が鶴崎地区（地域E）である他はすべて大分地区（地域A）であった。



第1図 大分市内地域区分図

第1表 平成21年度発掘調査一覧

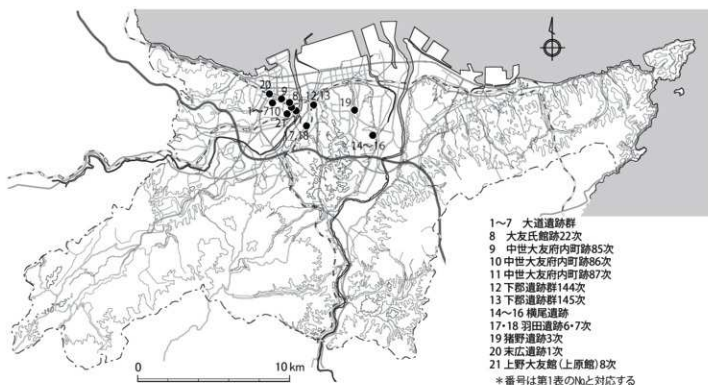
No.	遺跡名	所在地/地域	調査担当	調査原因	調査面積	調査期間	調査内容	報告予定
1	大道道路群31次	金池南1丁目 A	佐藤 山下	大分駅南土地 区画整理事業	1119.1	090618 ～ 090831	古代の大溝、井戸および掘立柱建物が検出され、井戸からは木製物が出土。古墳時代の方形竪穴建物も検出された。	平成24年度 以降
2	大道道路群32次	東大道1丁目 A	佐藤 山下	大分駅南土地 区画整理事業	954.4	091008 ～ 091211	大道20次・23次で確認されている古墳時代前期の溝状遺構の延長が確認され、溝の北東側で当該期の土坑が検出された。当該期集落は溝北東側に存在すると考えられる。	平成22年度
3	大道道路群33次	桜ヶ丘 A	山下 佐藤	大分駅南土地 区画整理事業	472.6	090902 ～ 090930	26次調査区からの延長である南北方向に延びる自然流路跡を検出し、古代に埋没したことが確認された。	平成24年度 以降
4	大道道路群34次	東大道1丁目 A	永松	大分駅南土地 区画整理事業	100204 ～ 100316	100204 ～ 100316	弥生時代後期前期の土器が多数に出土した廃棄土のほかに、近世～明治期の溝、溝井遺構が検出された。	平成24年度 以降
5	大道道路群35次	東大道1丁目 A	永松	大分駅南土地 区画整理事業	353.8	100204 ～ 100316	近世～明治期の溝、近世の大型土坑が検出された。	平成24年度 以降
6	大道道路群36次	金池南1丁目 A	永松	大分駅南土地 区画整理事業	160.3	100204 ～ 100316	28次から31次調査区へ続く古代大溝のほか、中世以降と推定される掘立柱建物を検出。	平成24年度 以降
7	大道道路群37次	金池南1丁目 A	永松	大分駅南土地 区画整理事業	352.8	100221 ～ 100316	近世溝井、大型土坑を検出。	平成24年度 以降
8	大友氏館跡22次	六坊北町 A	五十川	市内重要遺跡 確認調査	204.2	091001 ～ 091226	大友館東側ラインに関連する遺構の可能性があり、16世紀後半段階の礎石層と掘り込み地蔵跡が検出された。	平成22年度 （概報）
9	中世大友府内町跡85次	顕徳町2丁目 A	長 佐藤 上原	集合住宅建設	38	090513 ～ 090515	江戸時代後半の東西方向の大溝（SD006）と、奈良・平安時代のピットや土坑を検出した。大溝からは、「文政一朱金」が出土。	本書所収
10	中世大友府内町跡86次	六坊北町 A	五十川 長	市内重要遺跡 確認調査	2139	091001 ～ 091226	16世紀後半～末にかけて礎石をもつ建物が展開すること、生活空間でないことが確認され、「御破場」内部と推定される。	平成22年度 （概報）
11	中世大友府内町跡87次	大字大分 A	長 高品	街路建設 （庄ノ原佐野線）	1604	100202 ～ 100330	万寿寺南側では府内古図にみられる五重塔が確認されず、南北道路とこれに伴う町屋関連遺構が確認された。	平成22年度

%	道 路 名	所在地/地域	調査担当	調査原因	調査面積	調査期間	調査内容	報告予定
12	下郡道群144次	下郡北3丁目	河野 上原	集合住宅建設	8	100119	整地層上面から掘り込まれた古代と推定される柱穴及び小土坑等が確認された。	本書所収
		A						
13	下郡道群145次	下郡北3丁目	河野 上原	集合住宅建設	15	100218	字境に伴う近世溝を検出。	本書所収
		A						
14	横尾140次	大字横尾	五十川	横尾土地区画 整理事業	110	090527 090529	弥生後期土坑、ピット等。	平成22年度
		E						
15	横尾141次	大字横尾	塩地	横尾土地区画 整理事業	369.6	100110 100330	9世紀後半頃に比定される底付きの掘立柱建物跡、16世紀代の溝状遺構を確認。	平成22年度
		E						
16	横尾142次	大字横尾	塩地	横尾土地区画 整理事業	234.8	100110 100330	横尾遺跡の台地上で初めて、遺構に伴う形で縄文晩期の深鉢や都鳥産黒曜石製の剥片が出土。弥生後期前葉～後葉頃の祭祀関連遺構を含む環状集落跡、7世紀代の堅穴遺構等の遺構群も確認。	平成22年度
		E						
17	羽田道群6次	大字羽田	五十川 長	街路建設 (下郡羽田線)	1214.7	090601 090930	7地点の調査。弥生後期、古墳時代後期および中世の集落跡等を検出。中世後半期では、雑前焼を伴った土層を確認した。	平成23年度
		A						
18	羽田道群7次	大字羽田	五十川	街路建設 (下郡羽田線)	675.2	091116 100311	8地点の調査で、弥生後期～終末期の環状集落跡、古墳時代前期の集落、古代の道路遺構、中世前期の区画溝等が検出された。	平成23年度
		A						
19	猪野道群3次	大字猪野	永松	集合住宅建設	292.8	090721 090817	弥生中期～後期の住居跡・土坑、中世の掘立柱建物跡等が検出された。	平成22年 3月31日
		E						
20	末広道群1次	末広町	河野	街路建設 (末広東大道線)	110.5	100308 100330	府内域の外堀につながる川または水路と考えられる。江戸時代末期に埋積した大型遺構が確認された。	平成22年度
		A						
21	上野大友館 (上原館) 6次	上野丘西	佐藤 上原	集合住宅建設	25.4	091118 091120	中世整地層 古代土坑	本書所収
		A						

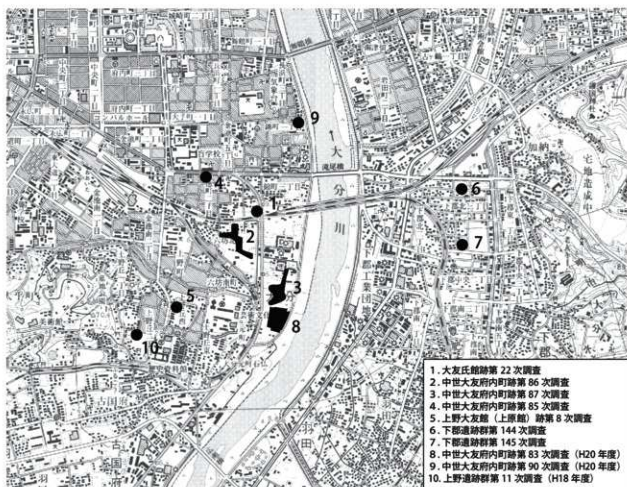
一方、開発事業に伴う試掘・確認調査・立会調査は122件であった。試掘・確認調査が44件、立会調査が68件である。試掘・確認調査では19件43%が公共事業に伴うものであるが、特に横尾地区においては、区画整理事業に伴う調査必要範囲の決定を目的とした確認調査を2度にわたって大規模に行っている。立会調査については、大半が個人住宅の浄化槽設置に伴う立会調査である。地域別件数では、開発件数の集中を反映して大分地区（地域A）が70件63%と全体の約3分の2を占めるが、横尾区画整理地区を含み、中小規模の民間開発も多い鶴崎地区（地域E）も19件17%に達し、次いで13件12%の横田地区（地域B）、8件7%の坂ノ市地区となっている。

第2表 平成21年度確認調査・立会調査一覧

[illegible]



第2図 平成21年度発掘調査位置図 (1/250000)



第3図 本書で報告する調査の位置図 (1/250000)

大友氏館跡第22次調査概要

調査面積
地域

198.2㎡

調査期間 09.10.01～09.12.26

A

調査担当 五十川雄也

調査区は、大友氏館跡の南東部にあった。今回の調査目的は大友館東側の外郭ラインの様子を把握することである。調査面積は約200㎡。調査区の西側は大友館1次（庭園跡等）・12次（礎盤石をもつ建物跡・井戸跡・連続土坑（植栽痕?））調査区、東側は町52次（区画溝跡・第2南北街路跡）調査区である。館22次調査区の大半は視察による削平をうけており、遺構の残存状況は良好ではない。遺構検出面は、地表から約1.5m下である。

16世紀代の遺構は、包含層・ピット・土坑状遺構・掘り込み地業跡・硬化層（整地）等を検出。出土遺物は京都系土師器・漳州窯系青花などで出土量は少ない。14世紀後半から15世紀代の遺構は包含層・ピット・廃棄土坑などを検出、出土遺物は在地系かわけ坏皿・石鍋片などで廃棄土坑などから多く出土している。

調査目的とした館東側の外郭ラインについては、視察の影響も大きく、他地点の外郭ラインの様子（溝状遺構や積土遺構など）は確認できなかった。しかしながら、16世紀後半段階の硬化層と掘り込み地業跡は大友館東側外郭ラインに関連する遺構の可能性があり、土堀もしくは土畝状構築物の基礎地業跡の可能性もある。
[館22次調査区の時期別土地利用]

14世紀後半～15世紀

→廃棄土坑など展開。

15世紀代

→廃棄土坑空間（調査区南東部）

建物空間（調査区南東部を除く。館12次調査で検出された建物跡と関連する可能性大きい。）

16世紀前半

→遺構はほとんどない。空閑地もしくは土畝などの区画施設が存在し、後に改変された可能性が考えられる。

16世紀後半

→地業跡が確認され、土堀もしくは土畝状の区画施設が存在した（推定天正14年以前）可能性がある。

16世紀末

→町屋などの建物空間。
（推定天正14年以降）

（五十川雄也）



第4図 調査位置図 (1/5000)



第5図 調査区全景（上が西）



第6図 地業跡土層（西から）

中世大友府内町跡第86次調査概要

調査面積

2139㎡

調査期間 09.10.05～09.12.26

地域

A

調査担当 五十川雄也・長 直信

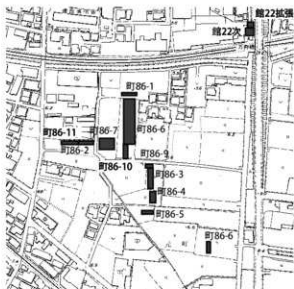
今回の調査は、「府内古図」に描かれた「御蔵場跡」に関する16世紀後半～末の遺構の性格を確認することを目的に、調査を行った。1581年～1586年頃の府内を描いたと推定されている「府内古図」は現在12枚ほどが確認されており、これらは図中に記載された施設の有無などから、A類～C類の3つに分類される。推定御蔵場跡とは、C類古図の中で、三方が白壁で囲まれ、中に「御蔵場」「大友御蔵場」「蔵場」などと表記されている地点をさす。この御蔵場は、大友館の南、万寿寺の西に位置し、「府内古図」から想定した「戦国時代の府内復原想定図」によると5haに及ぶ広大な敷地にあたる。調査は、2カ年を予定しており、今回は、①北外郭の確認。②西外郭の確認。③南外郭の確認。④内部の様相の確認を目的に8地点(町86-1～8)を調査した。

結果として、①北外郭を確認、②西側は設定した調査区内では確認できず、さらに西に存在する可能性が高い。③南は、現農道直下の存在している可能性が高く今回の調査では確認できなかった。④内部は、16世紀後半～末にかけて2または3時期にわたって礎盤石をもつ建物が展開する。この時期には焼けた壁土が大量に出土する土坑が検出されることから、内部には壁土を用いた建物が存在したと推測される。また、推定御蔵場内部と考えられる東西幅15m(6区)、20m(7区)の調査区内では、16世紀後半～末段階の大型の井戸跡や日用雑器を廃棄した土坑(ゴミ穴)は見つかっておらず、生活空間としての利用は現時点で確認できない。また、かわかけの大量廃棄土坑や区画溝なども確認できず、土地を区割りした様子もない。これまでの調査事例からみて、「町屋」や「武家屋敷」のような性格とは異なる空間であると考えられる。概要を以下に記す。

北側：町86-1区において、町5次で検出された推定外郭施設の一部である南北溝(町5SD101)の延長を確認。東側へ伸びていくことがわかった。南側：町86-3・4・5区、飛んで8区と長くあけたが、4・5区は井戸や廃棄土坑、ビット群の時期・性格から、16世紀後半の町屋である「ノコギリ町」の一角であると判断。3区は南側の一部までは井戸・廃棄土坑が存在し、同様に町屋の一角と判断した。西側：町86-2・7区は、南北方向に走る現在の農道が区画の名残ではないかという仮定のもと道路の東西を調査したが、溝などの区画は確認できない。内部：町86-6区北半分においては集石、礎盤石をもつ建物遺構。井戸や生活臭のある廃棄土坑がない。焼土の入ったビットは、6区北側では非常に多い。

推定御蔵場跡の調査は、2カ年目の調査として今年度に追加調査を行っており、詳細については、次年に報告する。

(長 直信)



第7図 調査位置図 (1/5000)



第8図 調査地点北西部空中写真(南東から)

中世大友府内町跡第87次調査概要

調査面積
地域

1604㎡
A

調査期間 10.02.02～10.03.30
調査担当 長 直信・高晶 豊

今回の調査は、戦国時代の友氏の下町（豊後府内）を描いたといわれる「府内古図」に描かれた五重塔の確認を主目的として15本のトレンチを、万寿寺境内内部に2本のトレンチを設定し調査を行った。

結果として、

- ①万寿寺から南北方向に延びる最大幅14mの道路を確認（道路に伴行して欄干などの遮蔽施設は確認できない）
- ②道路の東西には前面に柱穴の列、奥には大型の遺構（井戸やゴミ穴）が確認され、付近は、「町屋」的景観であったことが判明。
- ③塔跡に付随するような土壇跡や基礎となる土木作業痕跡は確認できず、調査範囲内では五重塔が建立されていた痕跡は確認できなかった。
- ④万寿寺に最も近い南北道路の東側部分（5～12トレンチ）の東西40m・南北40mの一角は、周囲と比較して柱穴や大型の遺構が極めて少なく、戦国時代の万寿寺が建っていた頃（16世紀後半）は空地であった可能性が高い。
- ⑤空地は、16世紀末頃（天正14年の島津侵攻後）に石塔を再利用した石組遺構や、瓦が多く出土する大型の遺構が展開する。

以上のことが判明した。なお、主な出土遺物として14・15世紀代の陶磁器、16世紀後半の遺構中より12～13世紀頃の高麗青磁「墩」と呼ばれる稀少品、五輪塔の他、14世紀～16世紀代の瓦や埴が多く出土した他、「鉄釜」と推定される鉄製容器が出土している。なお、瓦や埴はこれまでの万寿寺周辺の調査でも出土しており、万寿寺にほど近い調査地付近には、五重塔などの大型多層建造物とは異なる寺院関連施設があった可能性がある。

（長 直信）



第9図 調査位置図 (1/5000)



第10図 調査区全景空中写真（南から）



第11図 塔推定地付近空中写真（上が北）

中世大友府内町跡第85次調査報告

調査面積

38㎡

調査期間 09.05.14～09.05.15

地域

A

調査担当 佐藤道文・長 直信・上原翔平

1. 調査に至る経緯・立地と環境・調査概要

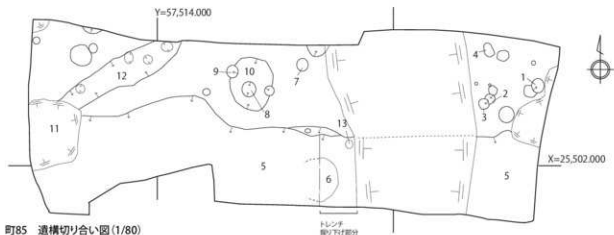
中世大友府内町跡第85次調査は、集合住宅の建設に伴って行われた。平成21年4月文化財保護法第93条が友岡新市氏より届出され、遺跡に影響する部分38㎡を対象に、5月14日から5月15日に本調査を実施した。調査地点は、中世大友府内町跡の「中町」の裏手に位置し、戦国期の遺構の展開が想定されていたが、調査の結果、16世紀代遺構は確認できず、江戸時代後半の東西方向の大溝（SD005）と、奈良～平安時代のビットや土坑を検出した。

2. 基本層序（第14図）

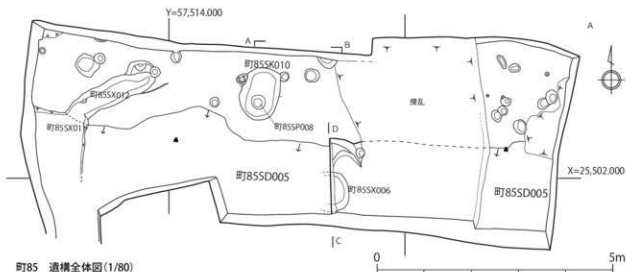
近代以降に盛土された層を除去すると、水田層である暗灰粘質土や茶褐色土が全面で確認される。この層



第12図 調査位置図 (1/5000)



町85 遺構切り合い図 (1/80)



町85 遺構全体図 (1/80)

第13図 出土遺構切り合い図・遺構全体図 (1/80)

を除去すると遺構面が確認できる。地山である黄灰色シルト質土の上には茶灰色土が堆積するが、この層が人工的な層であるかは確認できなかった。

3. 主要遺構

■土坑

町85SK010（第15図）

調査区中央西側で検出した東西1.14m、南北0.8m、深さ0.3mを測る楕円形状の遺構。壁面は比較的垂直気味に立ち上がり底面はほぼ平らである。最終埋没土の暗茶灰色土には黄色ブロックを多く含むことから人為的に埋められた可能性がある。出土遺物は非常に少ないが、8世紀後半から末に埋没したと考えられる。

■溝

町85SD005（第13・14・18・19図）

調査区南半分で検出した東西方向の大溝。試掘時に設定した南北トレンチでもほぼ全面で検出され（第18図）、南北4.7m以上となる。また、深いところでは20m以上を掘り、溝の最下面と想定される部分から南に折り返すと、南北10m近い幅の溝となる。試掘で18世紀代の陶磁器が確認できていたので、本調査では完掘は行わず北側のプランを確認した後、一部にトレンチを入れるに留めた。トレンチは、堆積状況および各層位毎による遺物の確認を目的に、SD005を東西に分断する大型の攪乱の西側に設定し掘り下げをおこなった。結果、SD005が掘削され、埋没した後にSX006とした遺構が掘削されていたことが判明。その後、このSX006を切ってSD005を踏襲する土層堆積が確認されており、SD005はSX006の形成を前後して、2時期の溝が存在したと想定される。なお、SX006の埋没後はやや粘りの強い「茶灰色土」→砂質の「暗茶灰色土」→砂質の「灰茶色土」の順に堆積しており、一時期に溝内が流水状況であったことがうかがえる。18世紀後半から19世紀頃の遺物の小片が少量出土している。最上層では近世の陶磁器類に混じって「一朱金」とよばれる江戸時代の金貨が出土した。

■その他の遺構

町85SX006

SD005の堆積土除去後に検出した直径0.9mほどに復元できる円形遺構。上部が掘り返し土で削平されるが、深さ0.4m分が残る。上層の「明茶褐色土」には橙色のブロック土が多く含まれており、一度に埋戻されたと考えられる。遺構の性格として一定の深さをもつことから井戸の可能性を考えたが、トレンチ部分では井戸枠の痕跡は確認できず、性格は不明である。遺物は出土していない。

■その他のビット

町85SP008：SK010を切るビット。土師器坏Dの口縁部片が出土した。

町85SX011：SX012とSD005を切る攪乱。近世の陶器片が出土。

町85SX012：南西～北東方向に延びる長楕円形状の遺構。18世紀代の遺物が少量出土。

その他の遺構としてSD005の北側にはビットが散在する。柱痕は確認できなかったが、どのビットも比較的深度をもち、深いもので0.6mを測るものもある。これらのビットから出土する遺物はミガキをもつ土師器類が多く8世紀中頃～9世紀前半代の遺構であると考えられる。

4. 出土遺物（第7図）

土坑

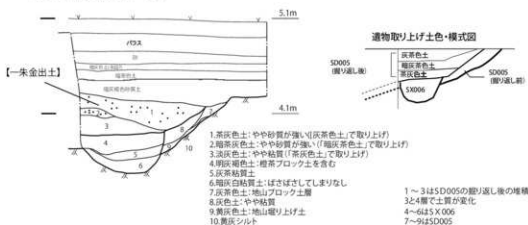
SK010（1～6）

1～5は土師器蓋。全て内外面にミガキが施される。6は底部に高台をもつ椀。内面に横方向のミガキaを施す。

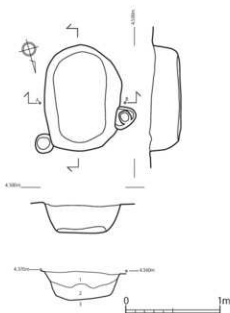
調査区北壁土層図 (A-B)



SD005 西壁土層図 (C-D)

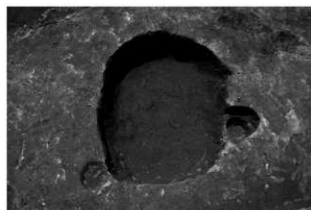


第14図 北壁・西壁土層図 (1/80)

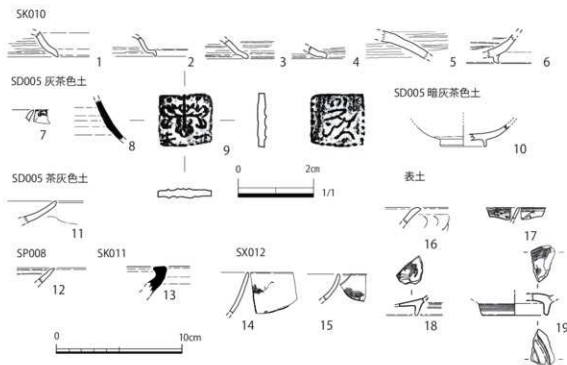


1. 暗茶褐色土: 黄色ブロック(粒状)を多く含む硬く締まった状態→丁寧に丁寧に埋められている。
古代の土器片が散見する。比較的きれいな土で埋められている。
2. 茶灰色土: サラサラと砂状を示し、地山に類似している。
炭化物・古代土器片を微量に含む。比較的きれいな土で埋められている。
3. 黄灰色土(地山): 砂状を含む
※掘り返しなど無い状況から自然堆積でなく人が埋めたと思われる。

第15図 SK010平面・断面図 (1/40)



第16図 SK010完掘状況 (北から)



第17図 出土遺物 (1/3)

溝

SD005灰茶色土 (7~9)

7は、萩焼のピラ掛け碗の口縁部片。8は、関西系陶器の壺片。9は一朱金。1.4gを測る。文政7年(1824)に初鋳され、天保11年(1840)に通用を停止している金貨であり「文政一朱金」をよばれる。裏面には豊臣家支配下で大判を鋳造した後藤家の傍流である後藤庄三郎光次を長とする金座で鋳造されたため「光次」の文字が打たれ、表面には後藤家の朝紋の極印と「一朱」の文字が打たれる。

SD005暗灰茶色土 (10)

10は、京・信楽系の陶器碗底部。

SD005茶灰色土 (11)

11は、白磁皿V類×の口縁部片。

その他の遺構

SP008 (12) 土師器坏d口縁部片。内面にミガキを施す。

SX011 (13) 国産陶器鉢の口縁部片。

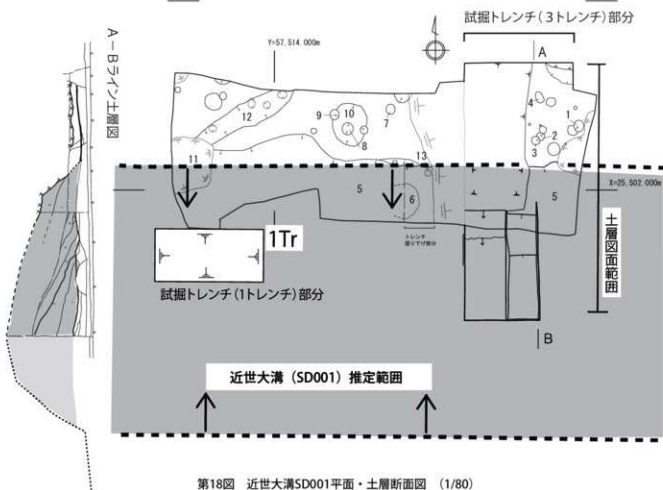
SX012 (14・15) ともに肥前系染付碗。

表土 (16~19)

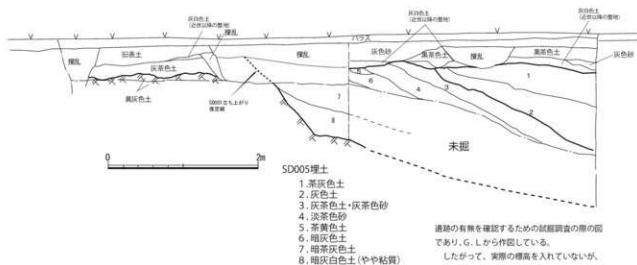
16は白磁碗V~4c類か。外面に工具による陰刻がみられる。17~19は青花で、17は内面に四方轡紋を描く碗。18は、碗C、19は碗E群である。

5. まとめ

今回調査を行った地点は戦国時代の都市遺跡である中世大友府内町跡の推定「中町」と考えられる町屋域の裏手に位置する。調査地の60m~70m東では、六坊・新中島線拡幅工事による発掘調査が行われ、大友府内町を縦断する南北道路やそれに取り付け町屋の一部が確認されている。調査の結果、試掘段階では、16世紀代の青花や、備前焼壺などが表土中より出土しており、中世の遺構の存在を想定していたが、今回の調査範囲で江戸時代後半の東西方向の大溝(SD005)や、奈良~平安時代のビットや土坑が検出され中世大友府内町に関連する遺構



第18図 近世大溝SD001平面・土層断面図 (1/80)



第19図 近世大溝SD001土層断面図 (1/50)

は確認することができなかった。本調査地点より約25m北に位置する。町74次調査でも中世府内町の町屋ではなく古代の遺物・遺構が確認されており、第4南北街路より100m西側に入ると戦国期の遺構は極めて希薄であったと考えられる。なお、大溝SD005は、その規模からみて壕かと疑うほど巨大であるが(第18図)、近世の府内城・城下町跡の範囲からは大きく外れる位置にあり、大型の溝にもかかわらず遺物の出土は極めて少ない。明治時代の地籍図では調査区の敷地内に東西方向の地割が確認できるが、このような巨大な溝状の遺構を掘削した意図は不明であり、その性格付けについては今後の課題である。なお、溝からは少ない遺物に混じて「一朱金」とよばれる江戸時代の金貨が出土した。大分市内で初の金貨の発見であり、貴重な成果となった。(長 直信)



第20図 調査区全景(東から)



第21図 SD001土層(東から)



第22図 SD001土層(西から)



第23図 SD001遠景(東から)



第24図 文政一朱金の出土(SD001内)

上野大友館跡（上原館跡）第6次調査報告

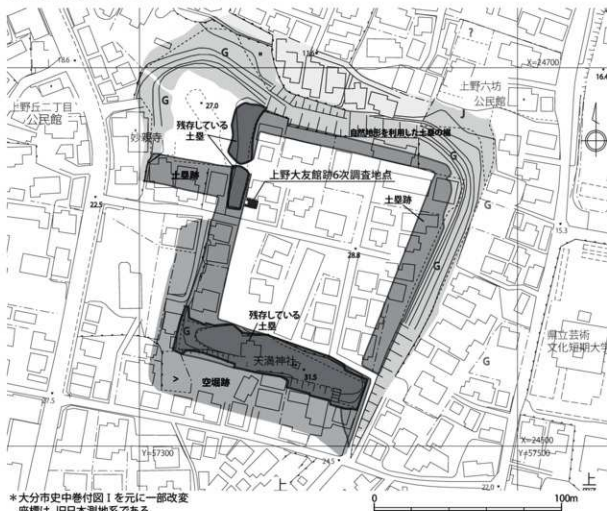
調査面積	25.4㎡	調査期間	09.11.18～09.11.20
地域	A	調査担当	佐藤道文・上原翔平

調査地は、大分市上野丘西に所在し、上野大友館跡に位置する。上野大友館跡は、古文書等に見られる「上原館」に比定されており、上野丘陵の北端に位置し、四方の土塁及び一部に堀を有する状況から、平地の「大友館」とは性格を異にするもう一つの大友氏の館として周知されてきた。（以下、「上野大友館」は「上原館」と呼称）

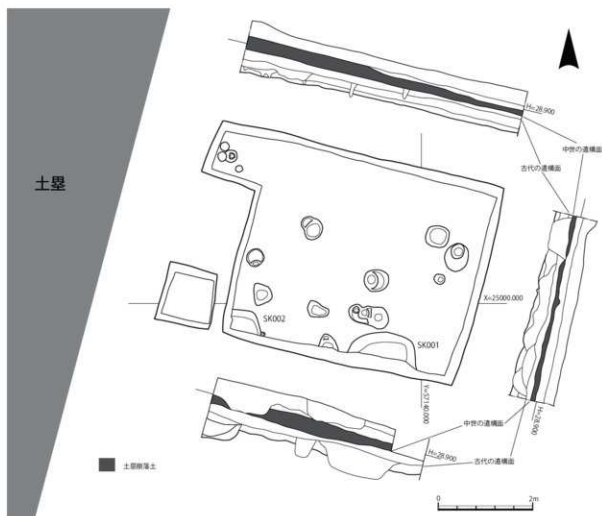
上原館には、土塁の一部（館南側と北西部）は現存しており、館跡南側に残る土塁跡は、現状で南北幅約17m、基底部から約25mの高さを確認している。また、館北西部においては郭状の張り出し部が確認されており、この張り出し部は館本体から約20m下に位置し、規模・位置から枳形に近い機能を有するもの考えられている。これら館全体の規模は土塁基底部間で南北約156m、東西約112m（～130m）と推定されている。



第25図 位置図 (1/5000)



第26図 調査区詳細位置図 (1/2000)



第27図 遺構全体図・土層断面図 (1/80)

調査地は、館北西部に現存する土塁跡の東側に隣接する部分で、調査要因は、集合住宅建設に伴う事前確認調査である。調査の結果、建物基礎が遺構面に達しないことを確認、遺跡の取り扱いについては、集合住宅建設時（基礎工事）の立ち会いとなった。以下、一部遺構の掘り下げも行った調査結果について記す。

調査は、申請地内なるべく土塁に近い位置に4.0m×5.0mの範囲で調査区（1トレンチ）を設定し、その西側に0.5m×1.0mの範囲で2トレンチを設定しておこなった。その後、1トレンチ北西部に土塁を確認する為のサブトレンチ（1.0m×1.0m）を設定し調査区を拡張している。

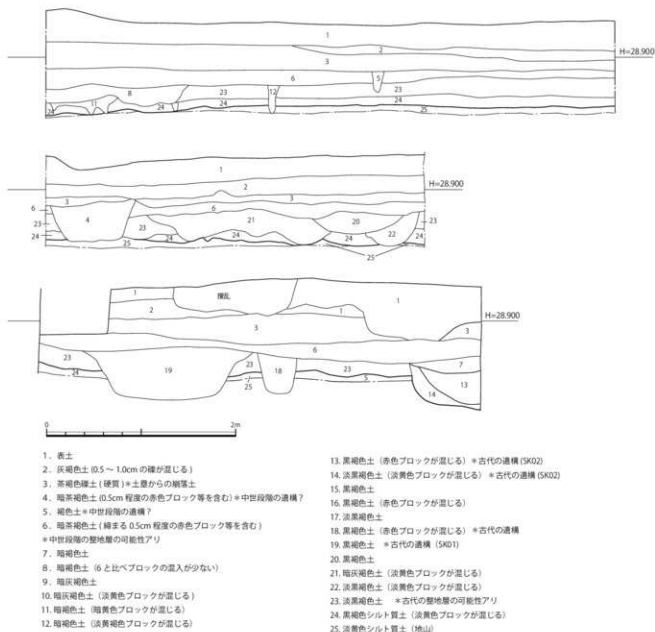
基本層位は以下のとおりである。

表土直下で茶褐色礫土（標高約29.0m：表土より約0.20m下：3層）を確認した。調査区の西から東にかけて厚さが緩やかに薄くなること、大量の礫が混入して固く締まっていることなどから、近・現代以降に行われた土塁崩落土を含む整地と考えられる。

その下位である標高約28.8m（表土より約0.40m下：6層）で暗褐色土を確認した。東壁土層よりこの層を掘り込む遺構を確認しており、後述するサブトレンチ部で出土した青磁片の存在から、中世段階の整地層の可能性が考えられる。

さらに下位である標高約28.6m（地表より約0.65m下：23層）で淡黒褐色土を確認した。今回検出された遺構の大半がこの層より掘り込まれていること、これら遺構の一部（SK001、SK002）から古代の遺物が出ることから、古代の整地層であると考えられる。

その下位より安定地盤である黄色シルト質土（標高約28.4m：地表より約0.85m下：25層）を確認した。この



第28図 調査区土層断面図 (1/40)

面より複数のピットや土坑を確認している。

検出された主な遺構は以下のとおりである。

SK001は、調査区南東部で検出された土坑である。東西方向の長軸1.5m、深さ0.5mを測る。南半部は調査区外となる短軸は現況で0.6mを測る。出土遺物には土師器等がある。

SK002は、調査区南西部で検出された土坑である。大半を調査区外となり、全体の1/4程度を掘削している。現況で、東西0.6m、南北0.4m、深さ0.5mを測る。出土遺物には須恵器、土師器、釥等がある。

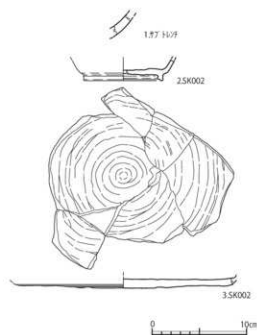
出土した遺物は以下のとおりである。

1. は、サブトレンチ掘削時出土した青磁碗である。龍泉窯系の青磁で、釉の発色は悪く、透明感はなく、白濁した状況である。上田分類のD類ないしE類に相当するものと考えられる。

2. 3はSK002から出土した遺物である。2. は須恵器の高台付坏である。高台径は復原で8.2cmを測る。3. は土師器の甕である内面には、粗面を残したミガキa2が施され、外面には底部へラ切り離しの後同くミガキa2

が施される。内外面のミガキを比較したとき、外面がやや粗い状況が観察される。底径は復原で22.4cmを測る。

SK002からは他にも小片で図示できないが、豊後型坏d及び企救型甕も認められていることから8世紀末から9世紀初頭の年代が考えられる。SK001についても小片ではあるが土師器坏、高台付坏が出土していることからSK002とはほぼ同時期と考えて良い。
(上原・河野)



第29図 出土遺物 (1/4)



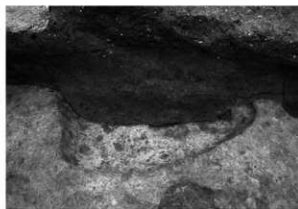
第30図 完掘状況 (南から)



第31図 調査区北壁



第32図 調査区南壁



第33図 SK001完掘状況

下郡遺跡群第144次調査報告

調査面積 8㎡

調査期間 10.01.19

地域 A

調査担当 河野史郎・上原翔平・羽田野裕之

下郡遺跡群第144次調査地点は、大分市下郡北3丁目276番の1に所在する。遺跡のはほぼ中央部に位置し、古代の遺構群が確認された34・94次調査区が調査対象地の北東に隣接する。

隣接する34・94次の調査成果に加え、事前に行われた確認調査でも古代の土師器片が出土していることから、周辺に存在するであろう一連の古代遺構の確認が想定された。

調査は、遺構が破壊される浄化槽部分の8㎡を調査対象とし、調査の結果、かく乱が調査区の大半を占め、調査区北端部の一部に整地層上面から掘り込まれ柱穴及び小土坑等の遺構が確認された。

確認された遺構群の位置づけとしては、34・94次調査区で確認された古代の遺構群が整地層上面から掘り込まれていることに加え、わずかながら出土する遺物片も古代と推定されることから、周囲に存在する一連の古代遺構ととらえる事が可能である。

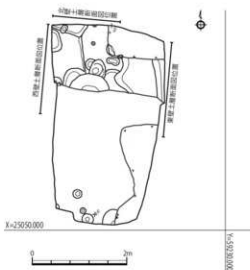
(上原・河野)



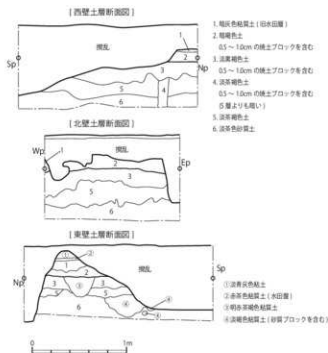
第35図 発掘状況(南から)



第34図 位置図(1/5000)



第36図 遺構配置図(1/80)



第37図 土層図(1/40)

下郡遺跡群第145次調査報告

調査面積 15㎡

調査期間 10.02.18

地域 A

調査担当 河野史郎・上原翔平・羽田野裕之

調査地は、大分市下郡北3丁目403、404、405番に所在する。周辺の調査地には西側の下郡遺跡群130次調査がある。

調査は、遺跡の破壊される浄化槽設置部分に約3.0m×5.0mの範囲でトレンチを設定しておこなった。調査の結果、調査区全体に東西方向に延びる溝状遺構を確認した。この溝状遺構は、複数回にわたる掘り返しの痕跡が認められ、完掘後の床面は畝状を呈する。出土遺物は小片かつ少量ではあるが、概ね近世以降に位置づけられるものである。こうした溝状遺構については、下郡遺跡群の各所で確認されており、旧地割に対応することが指摘されている。今回検出された溝についても、同一方向の旧字境が存在しており、これに対応するものと推定される。

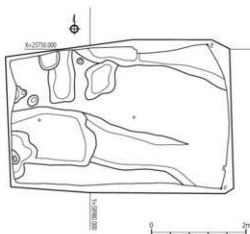
(上原・河野)



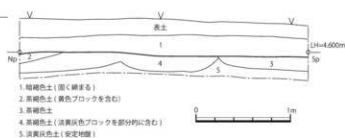
第39図 完掘状況（西から）



第38図 位置図 (1/5000)



第40図 遺構配置図 (1/80)



第41図 土層図 (1/40)

中世大友府内町跡第83次調査（確認調査）報告

調査面積 526.8㎡ 調査期間 08.07.23～08.08.06
 地域 A 調査担当 永松正大・三嶋桂司・上原翔平

1. 調査に至る経緯・立地と環境・調査概要

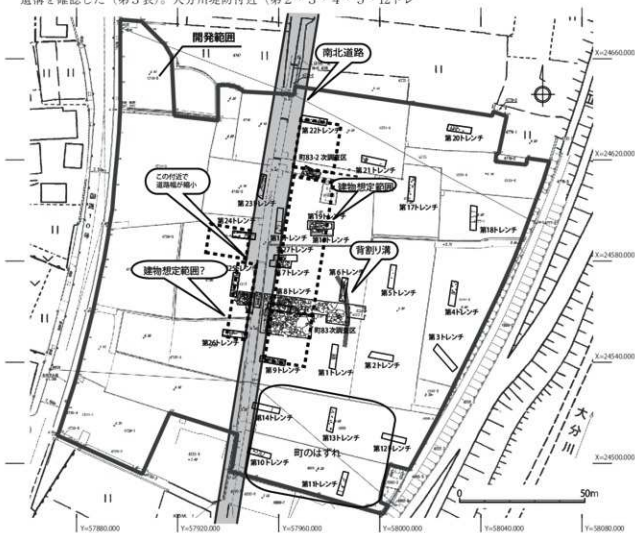
中世大友府内町跡第83次調査（確認調査）は、大分市大字大分字北前田・沖に所在し、大型店舗開発に伴って行われた。平成20年5月文化財保護法第93条に基づく届出が株式会社ホームインブループメントひろせ代表取締役廣瀬舜一氏より大分市教育委員会に提出され、さらに両者間で埋蔵文化財の発掘調査委託契約が締結された。これに基づき同年7月23日～8月6日に遺構の分布や検出標高を確認するため確認調査を実施した。店舗の開発面積が広大であったことから、建物基礎を計画している部分を中心に27本のトレンチを設定し確認調査を行った。なお、この確認調査を受けての本調査を平成21年度中に実施したが、その調査成果については「大友府内15」として刊行している。

2. 調査概要

現況畦境を参考に27本の試掘トレンチを設定し、すべてのトレンチで遺構を確認した（第3表）。大分川堤防付近（第2・3・4・5・12トレ



第42図 位置図 (1/10000)



第43図 確認調査トレンチ配置状況と調査成果図 (1/1500)

第3表 町83確認調査トレンチ一覧

トレンチ	規模(東西×南北)	面積	遺構検出レベル(m)	検出遺構
第1トレンチ	20×100	20	5.800	溝状遺構2条、ピット3基
第2トレンチ	90×23	207	5.300	ピット3基
第3トレンチ	100×50	50	—	ピット2基
第4トレンチ	215×80	172	5.100	土坑2基、ピット9基
第5トレンチ	19×90	171	5.900	東西溝状遺構2条、ピット5基
第6トレンチ	215×90	1935	5.640	溝状遺構1条、ピット20基 S-015深度0.46m、S-016深度0.52m
第7トレンチ	4×20	88	5.740	ピット8基
第8トレンチ	90×21	189	5.740	南北溝状遺構(石列遺構)1条、東西溝1条、ピット23基
第9トレンチ	100×215	215	—	南北溝状遺構(石列遺構)1条、東西溝1条、土坑2基、ピット43基
第10トレンチ	71×20	142	5.880	南北溝状遺構2条、礎を多量に含む不明遺構1基
第11トレンチ	195×90	1755	5.960	東西溝状遺構1条、溝状遺構1条、ピット5基
第12トレンチ	22×90	198	5.700	ピット4基
第13トレンチ	20×90	18	5.900	土坑1基、ピット11基
第14トレンチ	80×20	16	5.560	南北溝状遺構1条
第15トレンチ	22×90	198	—	—
第16トレンチ	82×21	1722	5.620	土坑3基(石組み土坑含む)、ピット19基
第17トレンチ	225×80	18	—	土坑2基、ピット12基
第18トレンチ	23×80	184	5.500	東西方向の近現代溝状遺構
第19トレンチ	90×25	225	5.780	大型土坑(井戸?)2基、土坑・ピット多数
第20トレンチ	90×20	18	5.580	南北溝状遺構1条、ピット8基
第21トレンチ	80×22	176	5.600	土坑(礎を多量に検出)1基、ピット6基
第22トレンチ	95×21	1995	5.700	東西方向溝状遺構1条、土坑・ピット多数
第23トレンチ	20×80	16	—	道路開通遺構(南北方向石列含む)
第24トレンチ	90×22	198	5.700	道路開通遺構(南北方向石列含む)
第25トレンチ	21×93	1953	5.840	東西方向溝状遺構2条、土坑7基、ピット多数 S-003深度0.54m、S-004深度0.38m
第26トレンチ	96×23	2208	5.760	道路開通遺構(南北方向石列含む)、ピット36基
第27トレンチ	82×23	1886	5.600	道路遺構(南北方向石列含む)、ピット45基

ンチ)では遺構の分布が希薄であるが、西側に向かうにつれて密になる。土層観察から表土上面から約45cmで遺構検出面に達し、遺構検出面上層に焼土・炭化物を包含する層を複数トレンチで確認した。調査地点を南北方向にはる農道に近接するトレンチでは、掘り込みを伴って、砂質土による硬化面を確認し「今道町」を通る道路跡と考えられる。また、溝状の遺構も道路跡の両側で確認できたことから道路幅は約10mであることが判明。また、道路部分の東西のトレンチでは道路遺構に直交するように建物跡らしき柱穴と地割と思われる溝状の掘り込みや、道路跡から約25m離れた地点で井戸状の大型遺構も確認できており、「今道町」を形成した町屋遺構と考えられる。一部掘下げを行った柱穴から、京都系土師器皿、在地系土師器(ロクロ成形)や瓦質土師器や釜、備前細鉢や甕等が出土し、16世紀後半～末頃の遺構と考えられる。なお北東側のトレンチでは、13世紀～14世紀に比定できる陶磁器が出土している。

今回検出した道路遺構は、「府内古図」に描かれた「今道町」を通る道路と考えられ、東西に広がる町屋遺構も「今道町」の町屋と想定される。調査区北側の万寿寺に続く参道及び町屋が非常に良好な状態で残っていることが判明し大きな成果となった。

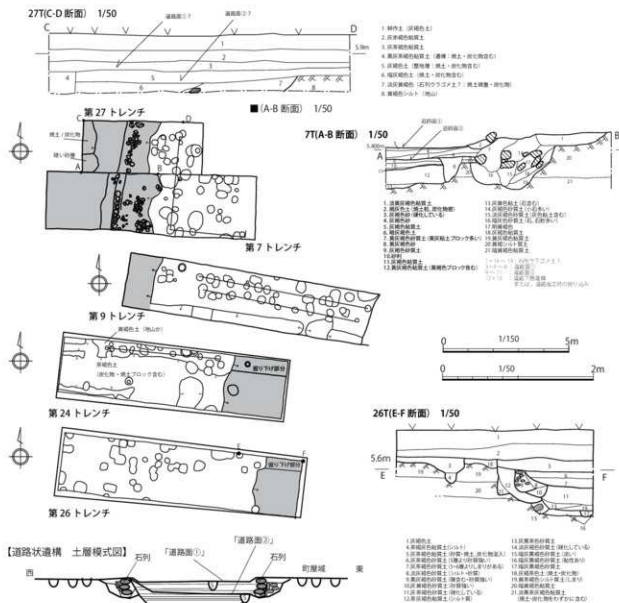
3. 主要トレンチ概要

各トレンチの規模や内容については第3表を参照し、以下では、主要なトレンチの概要を述べる。

■南北道路開通トレンチ(第44図)

現農道直下で確認した道路状遺構に関連したトレンチの概要を述べる。

① 7・24トレンチ(道路東側) 調査区中央で設定した東西方向に長いトレンチで、7トレンチで確認した道路状遺構を拡張するあたりに、24トレンチを北側に設定した。トレンチの東側は、ピットが複数確認されており、道路に対応する町屋域と考えられる。遺構確認のトレンチ調査のため、建物の並びを確定させることは難しいが、後述する石列の主軸にそって、建物ないし櫓が並ぶ可能性がある(第44図に図示したラインは参考)。トレンチの中央部に硬化した道路面と考えられる層が確認でき(これを「道路面①」とした)、これを除去すると、西側に面を揃える南北方向の石列群が検出できる。この石列は垂直方向に二段積まれており、石列を含む道路の東側の町屋域は、道路面に対して高くなる。なお、調査区全面は耕作により削平を受けており、当時の地表は確認できないが、「道路面①」の時点では、道路が嵩上げされていることから、東側の「町屋域」との高低差がなくなっている可能性がある。石列は、「道路面①」にそって幅方が帯状に確認されることから、道路面を一度



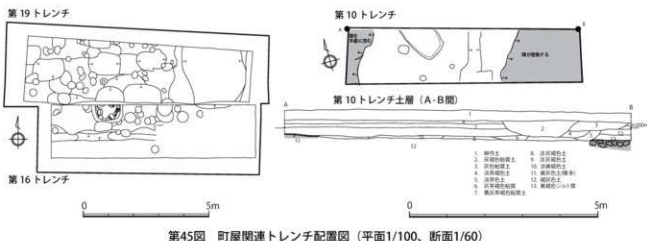
第44図 道路関連トレンチ構造図 (平面: 1/150、土層: 1/50)

掘り込んで石列を据えていると考えられる。

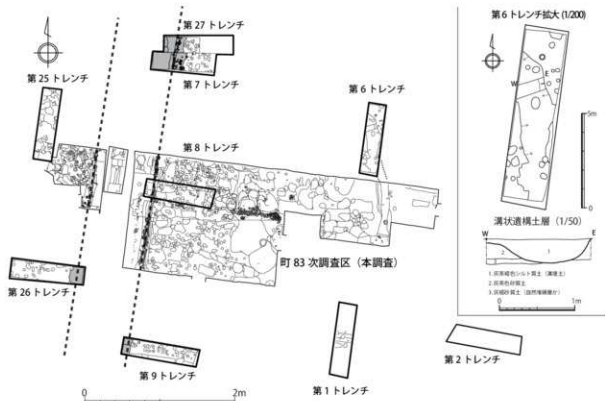
なお、「道路面①」については、町83次の本調査地点では、1586年の島津侵攻後の復興に伴う後片付けにより形成された遺物包含層 (町83SX020) として認識されている面に相当すると思われる。本トレンチ以外の地点では、本調査地点同様、明確な道路状遺構は確認されておらず、一段低い路面 (「道路面②」とする) を埋めた包含層として認識できるが、本トレンチで確認された硬化面の存在や調査地点全体の削平を考えると、「道路面①」は1586年以後に復旧した道路面である可能性が高い (第44図 土層模式図参照)。

⑨トレンチ (道路東側) 町83次本調査地点より南側に位置するトレンチで、調査区東端で、遺構の一部の可能性のある南北方向の掘り込みを確認した。これより東側は、ビットが確認できることから、他のトレンチ同様、町屋に関わる建物関連遺構と考えられる。東西方向に1.2m間隔でビットが並ぶ部分のあることから、櫓な いし掘立柱建物と考えられる。また、トレンチ南側では、東西方向の溝状遺構がビット列の主軸に沿って確認できることから、区画溝の可能性もある。

③24トレンチ (道路西側) 調査区中央で設定した東西方向に長いトレンチで、トレンチ東端で東方向へ向かって掘りこまれるプランが確認されたことから、道路状遺構の可能性もある。トレンチ北側には、1.0～1.2m程度



第45図 町屋関連トレンチ配置図 (平面1/100、断面1/60)



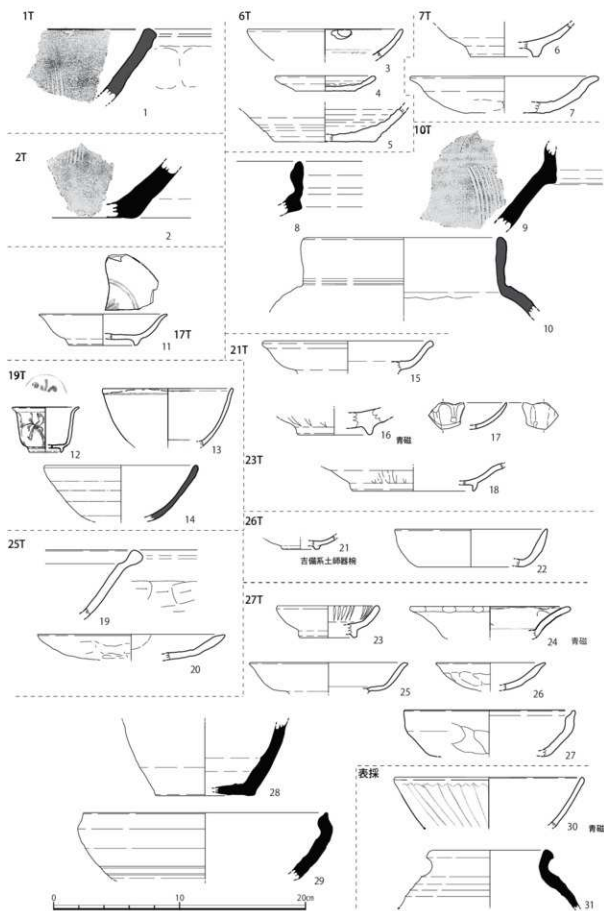
第46図 町83本調査区周辺確認調査トレンチ配置図 (1/500)

の間隔でピットが並ぶことから、構などの遺構が想定できる。なお、ピット列の南側は、道路状遺構のプランに切られる、焼土を含む茶褐色土が東西方向に帯状に広がっている。掘削を行っていないが、町屋エリアの整地でないし、区画溝の可能性もある。

④26トレンチ (道路西側) 町83次本調査地点より南西側に位置するトレンチで、本調査地点同様、トレンチ東端で、道路状遺構の一部と考えられる掘り込みラインを確認した。掘り下げ部分では、遺構が複数切り合っている状況が確認できたが、土層には礫が含まれており (第44図右下)、町83次本調査の所見を踏まえると道路の東端と同様に石列とそのウラゴメの一部の可能性もある。トレンチ西側では、他トレンチ同様、ピットが複数検出されており、町屋の「表」部分と考えられる。

■町屋部分のトレンチ (第45図)

①19・16トレンチ 町屋部分の状況を確認するために、調査区中央に設定したトレンチで、東西方向に長いトレンチを2本設定した。道路周辺の遺構がピット主体で、密度が低いのにに対して、本トレンチでは、ピットの他、



第47図 出土遺物 (1/3)

0.8×1.2m前後の長方形の土坑や、2mを超える大型遺構などが高密度に展開し、町屋内部の裏手付近という様相を呈する。また、30m南側に位置する町83次本調査地点では、2mを超える大型遺構は、道路状遺構の東端より15m東端で検出されているが、本トレンチでも同様の地点にあたることから、町屋建物域が奥行15m程度であり、これより東側は廃棄や井戸等が展開する景観が推測できる。なお、16トレンチ南端で東西方向に確認できる溝状遺構は、24トレンチ同様、町屋の南北を隔てる区画溝の可能性はある。

■町83次周辺トレンチ（第46図）

①25トレンチ 町83次本調査地点の北西に位置するトレンチで、町屋内部の様相把握を目的に設定した。町83次本調査では、道路の西端より約5mまでピットが密集するが、これより西側の本トレンチ部分にかけてはピットが減少し、大型遺構が高密度で検出できる。掘削を行っていないため時期や性格は不明であるが、道路東側のような奥行きのある町屋は想定できない。

②6トレンチ 町83次本調査地点の北東に位置するトレンチ。町83次本調査で背割りの溝とした南北方向の溝SD140の延長付近にあたり、トレンチ中央には、幅15m～18m、深さ0.3mほどの溝状遺構が検出された。この溝は、SD140と規模が近似しており同一遺構と考えられるが、SD140が南北方向に直線的に掘削されるのに対して、本トレンチの溝は西に大きく振れ、道路や町屋の主軸には並行しない。これは、地形に起因するものかもしれないが、本トレンチではこの溝以外の遺構は極めて少なく、町屋の端であることが想定できる。

■調査区南端のトレンチ（第45図）

①10トレンチ 設定したトレンチの中で最も南に位置する。トレンチ西端にわずかに南北方向の掘り込みプランが確認できることから、周辺の調査状況から南北道路の延長部分と考えられる。なお、このプランには礫が帯状に密集する部分があることから、石組のウラゴメ部分と推測される。また、トレンチ東側では、0.1～0.2m程度の礫が面的に広がっている部分が確認されている。掘削を行っていないため、性格は不明だが、町屋廃棄時の集石遺構か、礫敷きを伴う何らかの施設が展開する可能性がある。いずれにせよ調査区南端に位置する本トレンチは、全体に非常に遺構密度が希薄であり、町のはずれのような印象をうける。

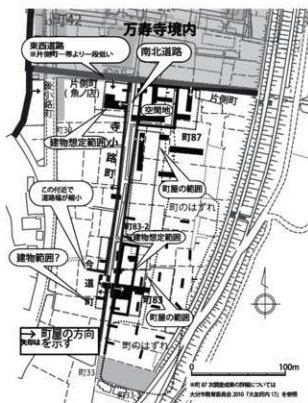
3. 出土遺物（第47図）

- 1 トレンチ出土遺物（1） 1は瓦質土器 播鉢。
- 2 トレンチ出土遺物（2） 2は、備前焼播鉢底部片。
- 6 トレンチ出土遺物（3～5） 3は青磁 4・5は内面に工具によるクロロ目を残す土師器で、4は小皿・5は大型の杯。
- 7 トレンチ出土遺物（6・7） 6は、朝鮮王朝産の碗。高台に砂目付着。7は京都系土師器皿。やや厚手。
- 10 トレンチ出土遺物（8～10） 8・9は備前焼播鉢。10は瓦質土器釜の口縁部
- 17 トレンチ出土遺物（11） 11は青花皿。B群。
- 19 トレンチ出土遺物（12～14） 12・13は青花で、12は端反になる小杯。13は碗のE群か。14は瓦質土器の碗で、体部外面にはヘラケズリ調整を施す。
- 21 トレンチ出土遺物（15～17） 15は、青磁皿。16は青磁碗の底部で、外面に連弁紋を片彫りする。17は白磁の菊皿。
- 23 トレンチ出土遺物（18） 18は青花皿のF群。
- 25 トレンチ出土遺物（19・20） 19は、土師質土器の鍋口縁部片。20は京都系土師器皿。
- 26 トレンチ出土遺物（21・22） 21は、吉備系土師器碗の底部片。22はハコ型の体部をもつ杯。底部系切りで体部から口縁部が紡錘形になる。
- 27 トレンチ出土遺物（23～29） 23は、白磁皿で、内面に型による鍋が施される。24は青磁の桜花皿で、腰折れ形状となる。25は青磁皿。26は、京都系土師器皿。27は碗形の京都系土師器。28は備前焼の底部片。29は備前焼の鉢。
- 表採（30・31） 30は、青磁碗で外面に剣先連弁紋を施す。31は備前焼の盃。

4. まとめ 道路と土地利用

今回の調査成果と、周辺の調査成果をまとめる
と、16世紀後半の万寿寺前面エリアは第48図のよう
に模式的に理解できる。これらの成果は、「府内古
図」に記載された内容に合致するものである。また、
町83次本調査での調査成果を含めると、道路東
側の町屋の建物規模が東西15mの範囲である点や、
遺構の疎密から、町屋域の中心と周縁を推測するこ
とができる。なお、出土遺物のなかには吉備系土師
器碗など14世紀代の遺物がわずかながら確認され
るが、調査時点での遺物の大半は、16世紀後半の遺
物群であった。万寿寺により近い町87次調査で確認さ
れた14・15世紀代の遺物の量と比較しても、希薄で
あり、万寿寺より150m程度離れる推定今道町付近
の開発は16世紀代に下る可能性が高い。なお、南北
道路の施工時期については、府内町南東部に位置す
る万寿寺とその土地開発、都市への変容を考える上
で重要となるが、今回の調査では確定できなかった。

(長 直信)



第48図 旧万寿寺南側遺構分布推定図



第49図 27T、7T遺構横出状況 (北西から)



第50図 7T道路遺構断面 (北から)



第51図 9T遺構横出状況 (西から)



第52図 16T、S-18 (南から)

中世大友府内町跡第90次調査（確認調査）報告

調査面積 128.2㎡ 調査期間 08.05.22～08.06.27
地域 A 調査担当 永松・佐藤・長・三嶋・上原

1. 調査に至る経緯・立地と環境・調査概要

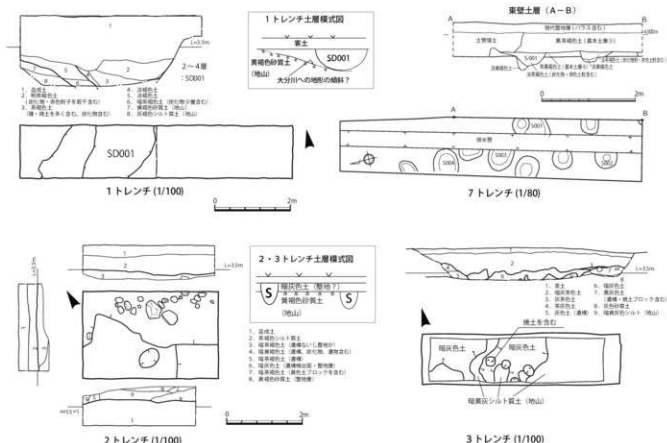
中世大友府内町跡第90次調査は、住宅地の開発に伴って行われた確認調査である。調査地点は、中世大友府内町跡の北端に位置する。東西の調査区を挟む現在の東西道路（幅約5m）は、府内町の北端を画す東西道路の名残であると推定され、道の北側が「ニシウ町」、南側が「辻之町」に当たり、これまで全く調査が行われていない地点であった（第54図）。遺構面の有無と遺構検出標高の確認が主目的である「確認調査」であったが、遺構の時期を確認するためにいくつかの遺跡の掘削を行った。調査は平成20年5月22日、6月5日、6月18～27日の計3回を同一の敷地内で行っており、これらの調査をまとめて中世大友府内町跡第90次調査とした。東西方向の道路を挟んで北側に第1トレンチ～第3トレンチ・第7トレンチを、南側に第4トレンチ～第6トレンチを設定した。遺構の有無を目的とした確認調査であったため、調査中にトレンチ位置を、国土座標中にはめ込む作業をおこなっておらず、トレンチ位置の精度は建物や土地境から割り出した大まかなものである。調査面積は、合計128.2㎡である。



第53図 位置図 (1/5000)



第54図 調査位置詳細図 (1/1000)



第55図 1～3、7 トレンチ平面図・土層図

結果として、青磁夜学型器台や中国南部産の焼締陶器を含む16世紀代後半代の遺構を確認し「府内古国」に描かれた段階の遺構が良好な形で遺存していることが確認できた。

2. 調査概要

A. 主要遺構

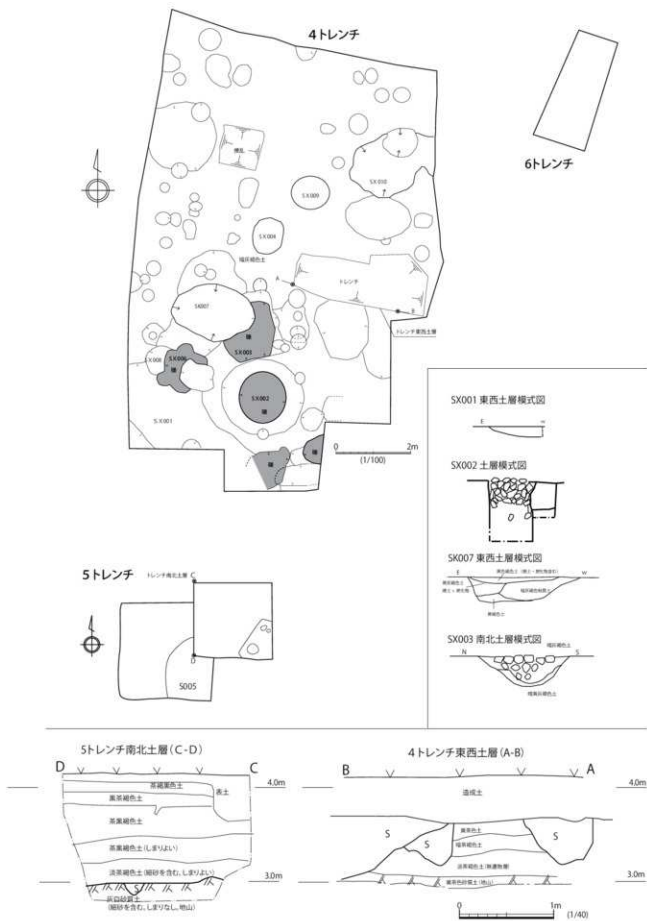
【北側の調査区】（第55図）

① **1 トレンチ** トレンチ規模は東西7.2m×南北1.4mである。トレンチ東側から地山が東方向に傾斜しており、傾斜面に堆積した土層を切って、SD001とした幅1.6m、深さ0.7m以上の溝状遺構を検出した。溝からは、16世紀後半の京都系土師器が出土した。地山面が傾斜する方向には大分川河川敷があり、地山の傾斜した状況は、河川による地形の浸食の可能性がある。

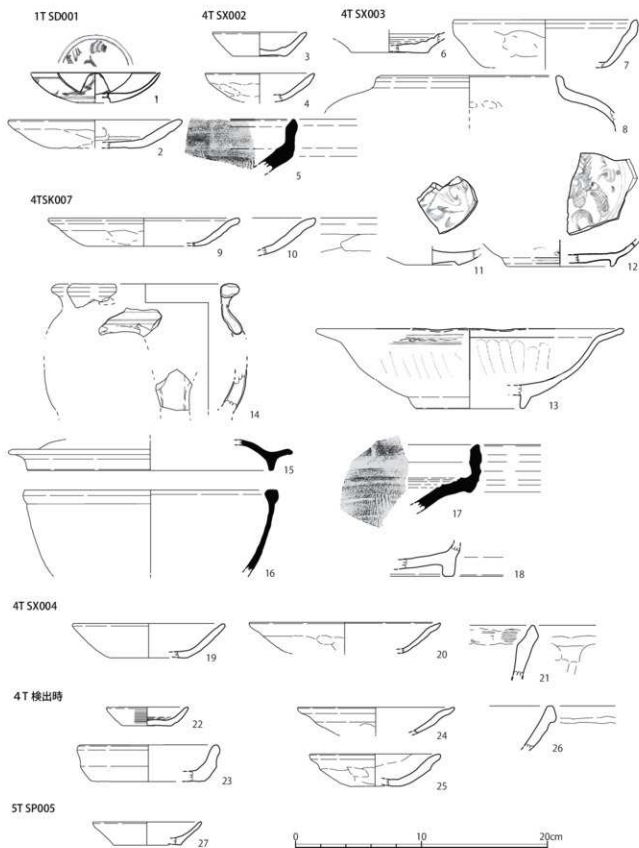
② **2 トレンチ** トレンチ規模は東西3.62m×南北2.4mである。調査区中央より北西方向に大型の遺構ないし、遺物包含層の堆積が確認でき、層中からは大・小の凝灰岩の礫が出土したが、その配列に規則性はない。この層に帰属する遺物はないが第2トレンチの位置は、南北方向の町屋を想定すると裏手にあたることから、16世紀代的大型遺構か。

③ **3 トレンチ** 戦国時代の東西道路を想定している現道に沿って、設けた東西5.2m×南北1.3mのトレンチである。遺構面は2面確認でき、「暗灰色土」の上面から形成される遺構と、地山である「黄褐色砂質土」の上面より形成される遺構がある。トレンチ内ではピットを数基確認したが、遺構の時期を示す遺物は出土していない。

④ **7 トレンチ** 戦国時代の東西道路想定地点より、約10m北側に設けた東西1.2m×東西6.4mのトレンチである。「茶黒褐色土」の上面よりピットを数基確認している。遺構の帰属時期を決定する遺物はないが3トレンチ同様ピットで構成されるエリアであることから、東西道路にとりつく町屋の一部である可能性がある。



第56図 4～6トレンチ平面図・土層図



第57図 出土遺物 (1/3)

【南側の調査区】(第56図)

④ 4 トレンチ 戦国時代の東西道路を想定している現道の南側に設定した。南北方向にやや長く設定した方形のトレンチで、35mを測る。トレンチの北側半分はピットを主体とした遺構が展開するが、南側では、トーンで

しめたような（第56図）埋土中に礫を多量に含んだ遺構や調査区内で完結しない大型遺構の展開が確認された。ピットや大型遺構の埋土中には焼土を含んだものもある。土層断面（A-B）では、「黄茶色土」の上面より遺構が形成され、「黄茶色土」下層には遺物を含んだ「暗茶褐色土」が面的に堆積している。5トレンチの土層断面（C-D）では地山直上から遺構を確認していることから「淡茶褐色土」を含めたこれらの層は整地の可能性が高く遺構面は2面以上存在すると推測される。調査では、集石遺構の性格や大型遺構の性格を把握するために一部掘り下げを行い、16世紀後半の遺物を確認した。

集石遺構（第56図）

SX002 暗茶褐色土の埋土に多量の礫を含む東西1.2m、南北1.4mの円形遺構。遺構を掘り下げると、上面に厚い礫層が確認された。外側には東西2.1m、南北2.0mの円形プランの遺構と切り合っているが、土層観察からは、外側の遺構が裏込めとなると考えられる（土層模式図参照）。遺構の完掘を行っていないので遺構の性格は断定できないが、礫群は遺構の廃絶時に投棄されたものと考えられる。

SX003 暗茶褐色土の埋土に多量の礫を含む東西1.3m、南北1.4mの遺構で、SX007に切られる。土層観察からはレンズ状の底部を持つ遺構に礫が詰まった状態で堆積する。

SX006 暗茶褐色土の埋土に多量の礫を含む東西1.2m、南北1.1mの遺構。SX003と同様多量に礫を埋土に含む。

これらの礫を含んだ遺構群については、調査の初期は建物の基礎（根締め石）の可能性を考えていたが、遺構の分布からは考えにくい。また、SX002のように、大型遺構の廃絶時に投棄した礫群もあり、多くは中世大友府内町跡の他地点でみられるような礫の廃棄を目的とした遺構である可能性が高い。

土坑（第56図）

SX007 SX008を切って形成される東西2.2m、南北1.5mの楕円形状の遺構。埋土には焼土や炭化物を多量に含む。唯一完掘した遺構であり16世紀後半の遺物が多量に出土した。

性格不明遺構（第56図）

SX001 暗灰褐砂質土が埋土で、黄褐色ブロック・炭化物・焼土粒を若干含む大型遺構。

SX004 黄灰色砂質土が埋土で、砂質が強く土中より貝殻（イボキサゴ：大分での俗称「ヤサラ貝」）が大量に出土した。

⑤5・6トレンチ 5トレンチは、4トレンチの約3m南に設定したトレンチで、SX005とした大型遺構や焼土を含んだピットを検出した。6トレンチは4トレンチの東側に設定したトレンチである。遺構は検出されなかった。

B. 出土遺物（第57図）

1 トレンチ出土遺物

SD001出土遺物（1・2）1は、青花皿。小野C群。2は、京都系土師器

4 トレンチ出土遺物

SX002（集石遺構）出土遺物（3～5）3は、土師器の小型の環。体部は外側に開き色調は赤褐色である。4は京都系土師器皿。5は備前焼鉢口縁部片。

SX003（集石遺構）出土遺物（6～8）6は、内面に工具によるロクロ目痕を明瞭に残す環の底部。色調は赤褐色。7は大ぶりの京都系土師器碗。8は、土師質土器の釜である。

SX007出土遺物（9～18）9・10は京都系土師器皿。11～13は青花。11は皿で小野C群。12はB×E群の皿。13はF群の皿である。14は青磁で、夜学型器台。体部には2パターンの透かしがあり、頸部にも透かしを施す部分がある。15・16は中国南部産焼締陶器で、15は蓋と考えられ、かえりをもつ。16は口縁部が玉縁状となる鉢である。17は備前焼鉢。18は、瓦質土器の火鉢底部。高台をもつ。

SX004出土遺物（19～21）19は、土師器杯。20は京都系土師器皿で、薄手のものである。21は土師質土器鍋の口縁部

検出時出土遺物（22～26）22は土師器皿で、外面に横方向のミガキをもつ。23は箱形の体部をもつ非常に厚

手の土師器坏である。24は薄手の京都系土師器皿である。25は京都系土師器皿。26は土師質土器の鍋口縁部片である。

5 トレンチ出土遺物

SP005 (27) 土師器小皿である。

3. まとめ

今回調査を行った地点はこれまで、発掘調査が全く行われていなかった辻之町筋の町屋（両備町）想定部分に位置する。調査の結果、16世紀代の遺構や遺物を確認した。掘削した遺構はわずかであったが、各トレンチで検出された遺構の種類とその分布をみると、北側の調査区では推定東西道路より15～20m北ではビットを主体とした遺構が確認され（3・7トレンチ）、これより北側では大型遺構が確認される（2トレンチ）。南側の調査区では、推定東西道路より約10m南付近でビットを主体とした遺構が確認され、これより南側では大型遺構が確認できる（4・5トレンチ）。これらの遺構分布の傾向から「表」と「裏」の関係をもつ町屋的なエリアと推測される。

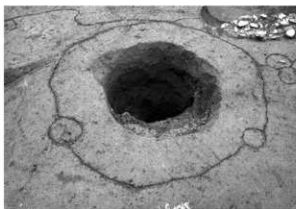
（長 直信）



第58図 4トレンチ南半遺構掘削状況（北西から）



第59図 4トレンチSX003（北西から）



第60図 4トレンチSX002（北西から）



第61図 2トレンチ遺構検出状況（南東から）

上野遺跡群第11次調査（確認調査・立会調査）報告

調査面積 181㎡ 調査期間 06.06.14・6.21・10.02～10.04
 地域 A 調査担当 若林善満・山下 桂・羽田野裕之・長 直信

調査対象地は、大分川の左岸に形成された標高約35mの上野台地上に位置し、平安時代後期の文献『宇佐八幡宮神領大鏡』に「高国府」の地名が認められることから、古国府地区とならぶ有力な豊後国府推定地と考えられている。そのなかでも昭和62年に刊行された『大分市史』によれば、今回の調査地は、上野台地の地籍図の検討から豊後国府推定地の西側周辺地にあたる。

集合住宅建設に伴い平成18年6月14日・21日に確認調査を行った結果、長軸12m、短軸0.85m、深さ0.55～0.7mの平面形状が隅丸長方形を呈する遺構が約0.6mの間隔をおいて2基検出された。当初、これらの遺構は柱痕が検出されなかったこともあって、土坑もしくは土壌墓として認識されていた。

その後、10月2日から4日にかけて建物基礎工事の掘削の際に立会を行った結果、同様の遺構がさらに8基並んで検出され、大型の掘立柱建物跡と明確に認識された。この大型掘立柱建物跡（SB001）は、東西2間以上、南



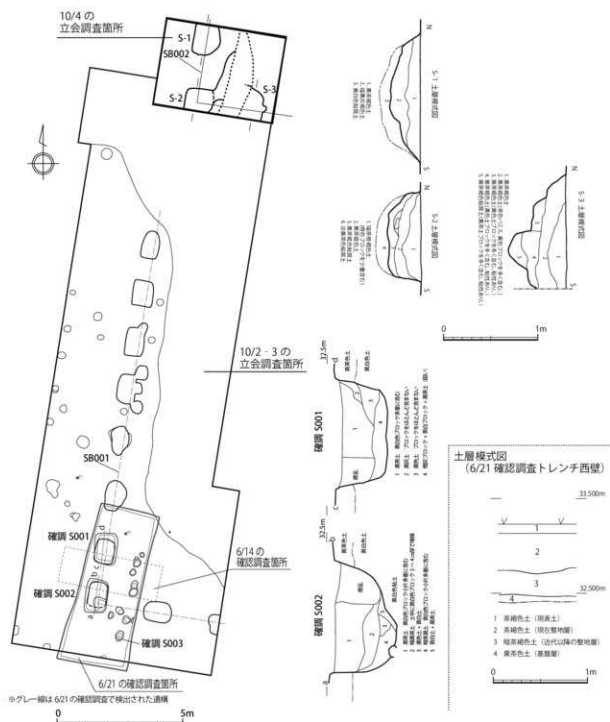
第62図 調査位置図 (1/5000)



※座標値は旧日本測地系

なお、調査区的位置は、建物の設計図に記載された土地境界線をもとに1/2500都市計画図上に当てはめられたものであり、精度は確実なものではない

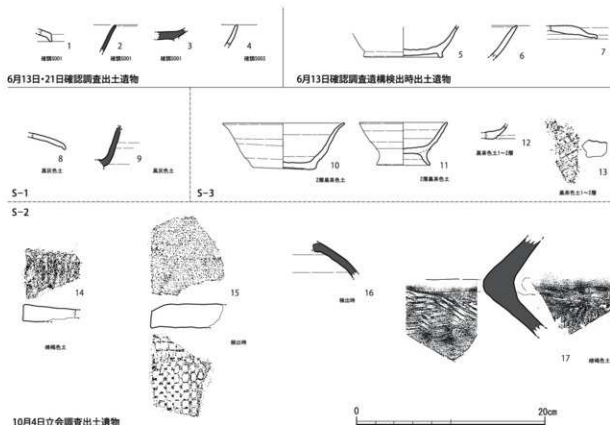
第63図 調査位置詳細・検出遺構配置図 (1/500)



第64図 遺構配置図 (1/150)・柱穴土層断面図 (1/40)・土層模式図

北7間以上の南北方向の建物跡で柱穴の平面形状は隅丸方形であり、いずれも長辺が1mを越える大型のものである。立会時には遺構の掘り下げを行っていないため、詳細な年代は不明ながらも、遺構検出時に出土した土器の帰属年代から古代の建物跡と判断される。その西側には調査区に沿って南北方向に並ぶ5基の柱穴列が確認されており、大型掘立柱建物跡との関連が示唆される。なお、調査時には国土座標を使用した正確な測量を行っていないが、建物設計図面と周辺の地割から復元すると、SB001の主軸方位はG.N. -9° -Eとなる。

また、前述の建物 (SB001) の北側にも大型の掘立柱建物跡が存在する可能性がある (SB002)。調査区北東隅で確認された3基の大型柱穴がそれで、工事により遺跡に影響を及ぼすおそれがある範囲にあたるため、これら遺構の掘り下げを実施した。柱穴 (S003) からは土師器片が出土しており、埋土の状況から、柱を抜き取った



第65図 出土遺物 (1/4)

後に土師器坏を埋置し、埋め戻された可能性が高い。出土土器の帰属年代から9世紀後半頃に比定される。

確認調査出土遺物

確認S001出土遺物（第65図1～3）

1は土師器蓋で、端部が短く折れる。2・3は須恵器で、2は坏ないし碗の口縁部片。3は端部を欠損する高台をもつ碗で、外面腰部には回転ヘラケズリ痕が確認できる。

確認S003出土遺物（第65図4）

4は土師器の坏。やや内湾気味になることから、須恵器模倣の形態ではなく在地の土師器坏。内外面にミガキは確認できない。

確認調査遺構検出時出土遺物（第65図5～7）

5～7は土師器で、5は碗で台形状の高台をもつ。磨滅のため調整は不明瞭であるが、体内面にミガキを施した可能性がある。内面底部は不定方向のナデを施す。6は、口縁端部内面に凹状の窪みをいれた豊後形坏dで、内外面に横方向のミガキが確認できる。7は、体部が「S字」状に屈曲するタイプの蓋で、口縁端部を僅かに下方に折る。磨滅のため調整は不明瞭であるが、体内面にミガキを施した可能性がある。角閃石を多量に含む赤褐色の色調を呈す。

立会調査時出土遺物

S-1黒灰色土（第65図8、9）

8は土師器の蓋で、口縁端部を欠損する。内外面に横方向のミガキを施す。9は、須恵器大型の坏の体部片。外面腰部に回転ヘラケズリ調整が確認できる。胎土は精緻であり、体部外面には丁寧な回転ナデを施す。

S-3黒茶色土（第65図10～13）

10～13は土師器で、10は厚手の底部をもつ坏。体部の立ち上がり部分に内外面とも強い回転ナデを施す。底

部はヘラ切り離し痕が観察できる。器壁は非常に荒れており調整不明瞭である。胎土は粗く2mm程度の白色砂粒を多く含む他、角閃石や白色・赤褐色砂粒を多く含む。暗赤褐色の色調を呈す。11は、細く長い高台をもつ碗。高台は2工程に分けて成形されており、端部は非常に薄く仕上げる。胎土は2mm程度の白色砂粒を多く含むが角閃石は少ない。淡黄白色の色調を呈す。12は坏の底部片。腰部外面は段をもつ。13は瓦片。5mm四方の格子目タタキを施す。須恵質に焼成され、暗灰色を呈する。

S-2 (第65図14～17)

14・15は平瓦片。1.2cm程度と薄い。外面の調整は磨減?のため不明瞭であるが、縄目タタキの可能性はある。須恵質焼成で暗灰色を呈する。15は、5mm×7mm程度の長方形の格子目タタキを施す。内面には布目が確認できる。暗黄灰色を呈し、焼成は不良。16・17は須恵器で、16は瓶の肩部片。外面には自然釉がかかり光沢をもつ。他の須恵器と比較して緻密に焼成され、胎土は緻密である。肩の張らない瓶形態と考えられる。感覚的ではあるが、自然釉のかかり方や調整の丁寧さ、胎土から搬入品の可能性がある。内面灰色、外面は黒みがかった暗灰色を呈す。17は、大甕片。内面に同心円状の当て具痕、外面には格子目状のタタキ痕が観察できる。色調は、外面暗灰色、内面淡灰色を呈する。頸部には接合痕が観察できる。

今回の調査成果としては、上野台地上の地制の方向に沿うような形で古代の大型建物跡が確認されたことが特筆される。国衛推定域の西側周辺部での発見であり、その関連性が注目される。

(塩地・羽田野・長・高島)



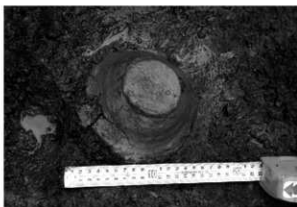
第66図 6/21確認調査時遺構検出状況（北から）



第67図 10/4遺構検出状況（南西から）



第68図 10/4遺構検出状況（北から）



第69図 S-3土師器坏出土状況

第4章 平成21年度の教育普及活動

①『戦国時代と大友宗麟』

－戦国・大分のまち「府内」の姿－展

開催期間：平成21年7月21日（火）～8月14日（金）

開催場所：九州電力大分支部社屋

来場者数：1,964人

②大友氏遺跡フェスタ2009企画展

「戦国時代の世界－大友宗麟とそのライバル達－」

開催期間：平成21年10月2日（金）～10月12日（月）

開催場所：大分銀行赤レンガ館ロウンプラザ支店内

大友宗麟の活躍した戦国時代とはどのような時代であったのか、また、九州の覇権争いでライバルとなった戦国武将達についてパネルで紹介した。

さらに、戦国時代に繁栄した戦国都市「府内」のまちなか様子パネルや発掘品を使って展示解説をおこなった。

③大友氏遺跡フェスタ2009

開催日：平成21年10月3日（土）

○大友府内田跡めぐり

時間：10:00～11:30

場所：大友氏遺跡・万寿寺 など

参加人数：96人

市民に大友氏遺跡について身近に感じてもらう機会とするため、戦国時代のまちにあった大友氏の屋敷跡や昔の面影を残す寺社などのゆかりの地を職員が解説を行いながら巡った。

○講演会「大友宗麟とその時代」

時間：12:30～16:00

場所：大分銀行赤レンガ館大ホール

参加人数：164人

講師：本多博之（広島大学大学院文学研究科准教授）

「毛利元就と大友宗麟」

八尾隆生（広島大学大学院文学研究科准教授）

「ベトナム陶磁とその故郷」

○パネルディスカッション「大友宗麟とその時代」

コーディネーター：櫻井成昭（大分県立歴史博物館）

講演会では広島大学から講師を迎え、大友宗麟と同時代に活躍した毛利元就をはじめとする戦国大名の動向やベトナムなどの国と南蛮貿易によって交易したことがらを通じて、当時の様子を広く市民に紹介した。



第70図 九州電力大分支店内での展示の様子



第71図 赤レンガ館での展示の様子



第72図 旧跡めぐりの様子



第73図 パネルディスカッションの様子

また、パネルディスカッションでは会場からの質問に講師が答える形式をとり活発な議論がおこなわれた。

④大分市歴史資料館第28回特別展 横尾貝塚国史跡指定記念特別展

「山縄文と海縄文－縄文人のムラのかたち－」

開催期間：平成21年7月10日（金）～9月6日（日）

開催場所：大分市歴史資料館 来場者数：6,106人

日本各地のムラの名産品とマツリの道具を展示し、横尾貝塚が姫島の黒曜石を求めて近辺のムラ人達が集まる大きなムラの遺跡であることを解説した。また、ムラの立地に視点をあて、九州と関東平野のムラの様子をイラストで復原し、横尾貝塚のムラの様子を紹介した。



第74図 大分市歴史資料館での展示のようす

⑤横尾貝塚国史跡指定記念講演会

「世界的にみた縄文文化と横尾貝塚」

講師：岡村道雄（国立文化財機構奈良文化財研究所 名誉研究員）

開催日時：平成21年8月23日（日）

開催場所：大分市穂田市民行政センター 参加人数：140人

世界に数多く残された貝塚のなかで、家族の墓を貝塚につくる風習は、東北アジア地域にしかない文化である。貝塚はすべてのものに生命があり再生すると信じた縄文人が食べ物や壊れた道具、家族の亡き骸を貝塚に置き、子孫とムラの繁栄を願う聖なる場所であった。また、ムラをつくり定住生活をはじめた縄文人は、生活に必要な物を調達できる社会の仕組みをつくりあげた。それは、見返りを期待することなく分け与える平等互恵の精神を持っていた縄文人だからこそ実現した社会であった。

横尾貝塚は、石の道具をつくる材料としてブランドの姫島の黒曜石が大量に運び込まれたムラの遺跡であり、さらに縄文の里山も残されている国の重要な文化財であることを強く認識させる講演となった。



第75図 記念講演会のようす

⑥横尾貝塚国史跡指定記念イベント

「縄文の里山ウォーク 8000年の森の探検」

開催日時：平成21年11月23日（月・祝日）

開催場所：国指定史跡 横尾貝塚 参加人数：211人

国指定史跡横尾貝塚の場所と史跡に残された縄文の森を紹介するため、その様子がよく分かる場所にチェックポイントを設置し、ウォークラリー形式で、講師による解説を行った。また、石の斧を使った木こり体験や火おこし体験などを行い、縄文人のくらしについて学習した。



第76図 木こり体験

⑦海部古墳資料館特別展 タイムトラベラー 2009

開催期間：平成21年10月20日（火）

～11月23日（月・祝日）

開催場所：海部古墳資料館 来場者数：2,822人

「古の海部のまつり～3000年前に、それは砂浜ではじまった。」と題し、海部地域におけるマツリのはじまりとその様子について紹介した。砂丘の頂きに土器を並べて行われたマツリの様子を再現し、実際に使われた土器を展示した。マツリには、普段使っている土器と区別するために、赤く塗り装飾で飾り立てたり、穴を開けたり底を打ち割ったものをはじめ、日常の土器と同じ形で小さくつくったミニチュア土器と呼ばれるものや、供物を供える台付の鉢などが使われたことをパネルや遺物を用いて解説した。



第77図 海部古墳資料館での展示

⑧大分市文化財便り2009年度号の発行

刊行日：平成21年7月1日



第78図 文化財たより2009年度号の内容

文化財たより2009年度号は、横尾貝塚国史跡指定記念特別展「山縄文と海縄文－縄文人のムラのかたち－」をテーマとした。特別展で展示する遺物の写真やテーマごとの概要を紹介し、理解を深めてもらうようにした。

⑨大友氏遺跡体験学習館

大友氏遺跡体験学習館は平成20年4月25日に開館し、出土品の展示や出土品を触れたりできる各コーナーを設けると共に映像を使った遺跡の解説などもおこなひ、中世の歴史を学び、調べ学習がおこなえる施設になっている。

開館2年目となる平成21年度は個人での見学者、団体での予約見学者等多岐にわたる利用があった。団体の内、学校関係では大友氏遺跡に関する出張授業や遠足にあわせての施設見学、体験発掘などの利用が見られた。



第79図 体験館内での活動



第80回 発掘体験



第81回 義統かぼちゃ苗植え祭

自主事業では年6回の歴史講座や南蛮菜花園でのかぼちゃの栽培、犬のお守り作りや大友宗麟のペーパークラフトを作る体験工房を開催した。

(塩地・石川)



第82回 収穫した義統かぼちゃ

大友氏遺跡体験学習館

○施設概要

◆開館時間 9時～17時

◆休館日

第1月曜日の翌火曜日と第2～5月曜日（祝日の場合は翌日）

祝日の翌日（土・日曜の場合は開館）

年末年始（12月28日～1月4日）

◆交通機関 JR大分駅より徒歩30分

大分バス（元町・富岡・滝尾循環／元町經由古国府循環）東元町下車徒歩3分

◆入館料 無料



第83回 大友氏遺跡体験学習館の外観

第5章 受贈図書目録

北海道	北海道歴史文化財センター 旭川市歴史文化財センター調査年報22	
宮城県	仙台市教育委員会 仙台市史 → 平成17年度発刊調査報告書 仙台市史 → 仙台市史調査報告書 仙台市史 → 仙台市史調査報告書 仙台市史 → 仙台市史調査報告書	仙台市史第1次調査 第1分冊 本文編 仙台市史第1次調査 第2分冊 史料編 仙台市史第1次調査 第3分冊 史料編 仙台市史第1次調査 第4分冊 史料編
山形県	山形市教育委員会 山形市史 → 山形市史	山形市史文化財調査年報 (平成19年度)
福島県	福島大学行政政策学総合学術研究 福島大学史 → 福島大学史調査報告書 福島大学史 → 福島大学史調査報告書	
茨城県	つくば市教育委員会 つくば市史 → 平成11年度発刊調査報告書 つくば市史 → 平成16年度発刊調査報告書 つくば市史 → 平成17年度発刊調査報告書	上江藤 鶴山公園文化財分布調査報告書15 鶴山公園文化財分布調査報告書16
石川県	石川県教育委員会 石川県史 → 石川県史 石川県史 → 石川県史 石川県史 → 石川県史 石川県史 → 石川県史	石川県史第1次調査 第1次調査 石川県史第1次調査 第2次調査 石川県史第1次調査 第3次調査 石川県史第1次調査 第4次調査
秋田県	秋田大学人文社会科学部 秋田大学史 → 秋田大学史調査報告書	秋田大学史 → 秋田大学史調査報告書
栃木県	足利市教育委員会 足利市史 → 足利市史調査報告書	ようこそ足利市調査報告書
千葉県	国立歴史民俗博物館 国立歴史民俗博物館調査報告書 国立歴史民俗博物館調査報告書 国立歴史民俗博物館調査報告書 国立歴史民俗博物館調査報告書	国立歴史民俗博物館調査報告書 第15巻 国立歴史民俗博物館調査報告書 第16巻 国立歴史民俗博物館調査報告書 第17巻 国立歴史民俗博物館調査報告書 第18巻
東京都	東京都教育委員会 東京都史 → 東京都史 東京都史 → 東京都史 東京都史 → 東京都史 東京都史 → 東京都史	東京都史第1次調査 第1次調査 東京都史第1次調査 第2次調査 東京都史第1次調査 第3次調査 東京都史第1次調査 第4次調査
神奈川県	横浜市教育委員会 横浜市史 → 横浜市史調査報告書 横浜市史 → 横浜市史調査報告書 横浜市史 → 横浜市史調査報告書 横浜市史 → 横浜市史調査報告書	横浜市史第1次調査 第1次調査 横浜市史第1次調査 第2次調査 横浜市史第1次調査 第3次調査 横浜市史第1次調査 第4次調査
新潟県	新潟市教育委員会 新潟市史 → 新潟市史調査報告書 新潟市史 → 新潟市史調査報告書 新潟市史 → 新潟市史調査報告書 新潟市史 → 新潟市史調査報告書	新潟市史第1次調査 第1次調査 新潟市史第1次調査 第2次調査 新潟市史第1次調査 第3次調査 新潟市史第1次調査 第4次調査
富山県	富山県教育委員会 富山県史 → 富山県史調査報告書 富山県史 → 富山県史調査報告書 富山県史 → 富山県史調査報告書 富山県史 → 富山県史調査報告書	富山県史第1次調査 第1次調査 富山県史第1次調査 第2次調査 富山県史第1次調査 第3次調査 富山県史第1次調査 第4次調査
石川県	石川県教育委員会 石川県史 → 石川県史調査報告書 石川県史 → 石川県史調査報告書 石川県史 → 石川県史調査報告書 石川県史 → 石川県史調査報告書	石川県史第1次調査 第1次調査 石川県史第1次調査 第2次調査 石川県史第1次調査 第3次調査 石川県史第1次調査 第4次調査
福井県	福井県教育委員会 福井県史 → 福井県史調査報告書 福井県史 → 福井県史調査報告書 福井県史 → 福井県史調査報告書 福井県史 → 福井県史調査報告書	福井県史第1次調査 第1次調査 福井県史第1次調査 第2次調査 福井県史第1次調査 第3次調査 福井県史第1次調査 第4次調査

- 44 -

[illegible]

[illegible]

新北九州市芸術文化振興財団 研究紀要 第22号 平成25年度調査報告書第25号 平成19年度～ 道南大町遺跡①、道南東海遺跡 道南大町遺跡② 道南中町遺跡①、道南中町遺跡② 道南中町遺跡③、道南中町遺跡④ 道南中町遺跡⑤、道南中町遺跡⑥ 道南中町遺跡⑦、道南中町遺跡⑧ 道南中町遺跡⑨、道南中町遺跡⑩ 道南中町遺跡⑪、道南中町遺跡⑫ 道南中町遺跡⑬、道南中町遺跡⑭ 道南中町遺跡⑮、道南中町遺跡⑯ 道南中町遺跡⑰、道南中町遺跡⑱ 道南中町遺跡⑲、道南中町遺跡⑳ 道南中町遺跡㉑、道南中町遺跡㉒ 道南中町遺跡㉓、道南中町遺跡㉔ 道南中町遺跡㉕、道南中町遺跡㉖ 道南中町遺跡㉗、道南中町遺跡㉘ 道南中町遺跡㉙、道南中町遺跡㉚ 道南中町遺跡㉛、道南中町遺跡㉜ 道南中町遺跡㉝、道南中町遺跡㉞ 道南中町遺跡㉟、道南中町遺跡㊱ 道南中町遺跡㊲、道南中町遺跡㊳ 道南中町遺跡㊴、道南中町遺跡㊵ 道南中町遺跡㊶、道南中町遺跡㊷ 道南中町遺跡㊸、道南中町遺跡㊹ 道南中町遺跡㊺、道南中町遺跡㊻ 道南中町遺跡㊼、道南中町遺跡㊽ 道南中町遺跡㊾、道南中町遺跡㊿	道南中町遺跡①、道南中町遺跡② 道南中町遺跡③、道南中町遺跡④ 道南中町遺跡⑤、道南中町遺跡⑥ 道南中町遺跡⑦、道南中町遺跡⑧ 道南中町遺跡⑨、道南中町遺跡⑩ 道南中町遺跡⑪、道南中町遺跡⑫ 道南中町遺跡⑬、道南中町遺跡⑭ 道南中町遺跡⑮、道南中町遺跡⑯ 道南中町遺跡⑰、道南中町遺跡⑱ 道南中町遺跡⑲、道南中町遺跡⑳ 道南中町遺跡㉑、道南中町遺跡㉒ 道南中町遺跡㉓、道南中町遺跡㉔ 道南中町遺跡㉕、道南中町遺跡㉖ 道南中町遺跡㉗、道南中町遺跡㉘ 道南中町遺跡㉙、道南中町遺跡㉚ 道南中町遺跡㉛、道南中町遺跡㉜ 道南中町遺跡㉝、道南中町遺跡㉞ 道南中町遺跡㉟、道南中町遺跡㊱ 道南中町遺跡㊲、道南中町遺跡㊳ 道南中町遺跡㊴、道南中町遺跡㊵ 道南中町遺跡㊶、道南中町遺跡㊷ 道南中町遺跡㊸、道南中町遺跡㊹ 道南中町遺跡㊺、道南中町遺跡㊻ 道南中町遺跡㊼、道南中町遺跡㊽ 道南中町遺跡㊾、道南中町遺跡㊿
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第1号	春日市教育委員会 第1号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第2号	春日市教育委員会 第2号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第3号	春日市教育委員会 第3号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第4号	春日市教育委員会 第4号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第5号	春日市教育委員会 第5号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第6号	春日市教育委員会 第6号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第7号	春日市教育委員会 第7号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第8号	春日市教育委員会 第8号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第9号	春日市教育委員会 第9号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第10号	春日市教育委員会 第10号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第11号	春日市教育委員会 第11号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第12号	春日市教育委員会 第12号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第13号	春日市教育委員会 第13号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第14号	春日市教育委員会 第14号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第15号	春日市教育委員会 第15号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第16号	春日市教育委員会 第16号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第17号	春日市教育委員会 第17号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第18号	春日市教育委員会 第18号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第19号	春日市教育委員会 第19号
春日市教育委員会 春日市教育委員会 第20号	春日市教育委員会 第20号

長崎県	神埼市教育委員会	西田進輝	野谷進輝、西田進輝
	唐津市教育委員会	大塚文太郎 市内各学区調査員	松島英雄 市各学区調査員 市庁の大塚15 比野文化財調査報告書
	神埼市教育委員会	市内各学区調査員	
	吉野・星野教育委員会	平成13年から平成17年度 中・小・高別調査員及び市内各学区調査員	市内各学区調査員報告書1（平成元年～13年度）
	長崎県教育庁	一般財団法人長崎県建設院に付う雅緻文化財発掘調査報告書Ⅱ 門前遺跡 一般財団法人長崎県建設院に付う雅緻文化財発掘調査報告書Ⅲ 門前遺跡	一般財団法人長崎県建設院に付う雅緻文化財発掘調査報告書Ⅱ 門前遺跡 一般財団法人長崎県建設院に付う雅緻文化財発掘調査報告書Ⅲ 門前遺跡
	長崎文化観光局	調査員：長崎県建設院 調査員：長崎県建設院	
	壱岐市教育委員会	壱岐市教育委員会 壱岐市教育委員会	壱岐市教育委員会 壱岐市教育委員会
	雲仙市教育委員会	壱岐市教育委員会 壱岐市教育委員会	壱岐市教育委員会 壱岐市教育委員会
	大村市教育委員会	壱岐市教育委員会 壱岐市教育委員会	壱岐市教育委員会 壱岐市教育委員会
	佐世保市教育委員会	壱岐市教育委員会 壱岐市教育委員会	壱岐市教育委員会 壱岐市教育委員会
熊本県	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
大分県	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会
	大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会	大分市教育委員会 大分市教育委員会

[illegible]

大分市埋蔵文化財調査概要2010
平成21年度版

平成22年12月28日

編集・発行

大分市教育委員会文化財課

太分市荷楊町2番31号

〒870-0435 (097) 534-6111